

平成27年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 平成27年8月31日（月）
午後4時から
場 所 県庁10階 大会議室

1 開 会

2 議 事

(1)平成26年度 of 取組状況について（各県立病院）

(2)経営計画 of 評価等について（病院局）

3 閉 会

【配付資料】

資料1：中央病院 of 平成26年度

資料2：～三好病院～ 平成26年度 of 足跡

資料3：徳島県立海部病院 一平成26年度 of 取り組み一

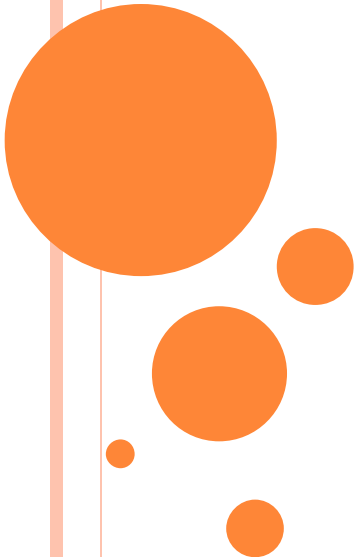
資料4：徳島県病院事業経営計画 of 取組状況

資料5：徳島県病院事業経営計画進捗状況 自己評価（平成26年度）

資料6：「徳島県病院事業経営計画 of 概要」

中央病院の平成26年度

1. 診療実績(5疾病5事業中心に)
2. 経営収支
3. 地域医療構想



全適10年目
新病院3年目

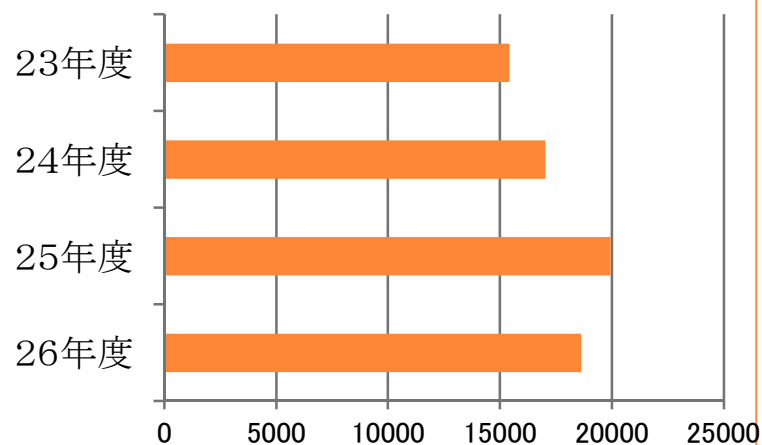
2025年 さらに未来に向けて

救 急 医 療

救急患者数の推移

年間2万人弱と減少
(小児救急の減少)

救急患者数



平成27年度

救急医療功労者

厚生労働大臣表彰

(全国15団体程度)

平成26年度 同

徳島県知事表彰

課題:

軽症者の受診

救急医の負担

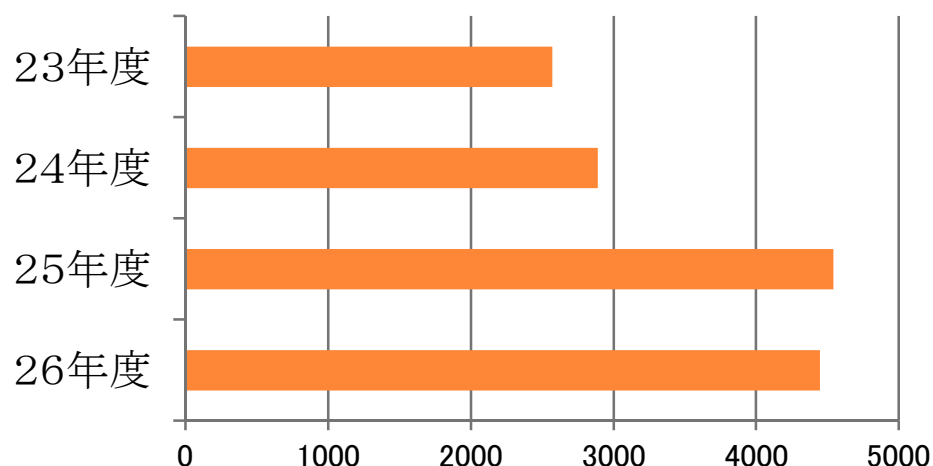


小児救急

大きな成果であるが、課題も

○ 実績

小児救急患者数



年間 4,500人程度

(入院適応患者が多い)

○ 何らかのハードルが必要か？

(選定療養費)

○ 課題

・小児科医不足→

当直回数増

・コンビニ受診
(小学生までは、どの
状況でもほぼ無料)



小児科医の疲弊



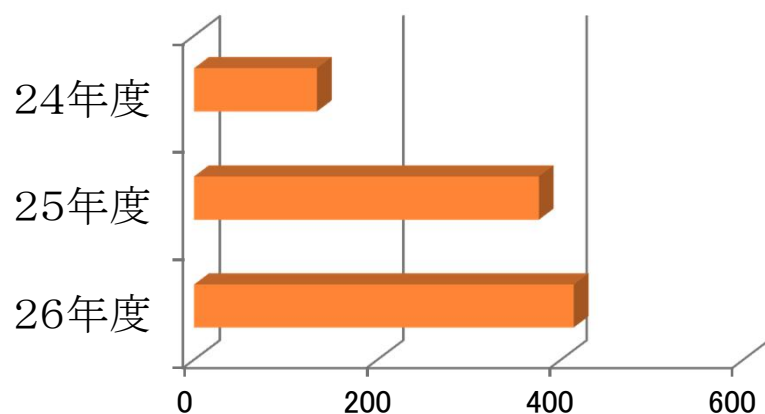
ドクターヘリ 千回出動

県内の救急医療に定着

○ 運航開始

平成24年10月9日
(新病院開院と同時)

平成27年6月13日
通算1,000回出動
ドクヘリ出動数



○ ドクターヘリが、

カバーしきれない部分

- ・夜間
- ・近距離
- ・天候不良時

・ホスピタルカー

での対応を検討開始



がん診療

チーム一丸となって

1 放射線治療

(装置は新病院とともに2台に)

実績 平成26年度 5,525件

高精度 152件



2 化学療法

外来化学療法室10床

3 手術

平成26年8月 手術ロボット

「ダビンチ導入」

実績 平成26年度 23件

平成27年度 23件

(8月現在)

○ 地域との連携 がん連携パス

○ 緩和ケア外来

○ がん診療支援センター

県民公開講座等



災 害 医 療

○ 基幹災害拠点病院

南海トラフ地震でも生き残る
病院として、

- 病院内の様々な情報を
ネットで共有する
「情報共有システム」
- 院内主要箇所の映像を
集約する
「モニタリングシステム」
を整備中

○ 多数傷病者受入訓練

平成26年9月26日

平成27年2月28日

平成27年度東部県域

防災訓練

近く開催

- 場所: 中央病院駐車場
- 参加機関
徳島県
加茂名地区自主防災組織
徳島市消防
徳大医学部



臨床指標

	25年度 実績	26年度 実績	30年度 目標		25年度 実績	26年度 実績
平均在院日数 (精神病床除く)	9.4日	9.7日	9.5日	1日平均 入院患者数	367人	362人
1日平均 新規入院患者数 (精神病床除く)	30.5人	30.9人	35.0人	1日平均 外来患者数	625人	610人
				手術数	5,164件	5,475

入院患者数、外来患者数とも減少、
手術数は増加



収 支 状 況

		平成26年度	平成35年度
		決算	計画
	医業収益	12,525	12,298
	医業外収益	2,306	1,688
総収益	計	14,831	13,986
	医業費用	13,529	12,651
	(うち減価償却)	1,343	850
	医業外費用	949	655
	特別損失	656	0
総費用	計	15,134	13,306
純損益		△ 303	680

- 今後、大幅な収益の伸びは見込めない
- 費用の削減に向け全力
 - ・委託料
 - ・医療機器
 - ・診療材料・・・・・・・・



D P C Ⅱ 群病院

(D P C : 急性期入院医療を対象とする包括支払制度)

○ 平成26年度

初のDPC Ⅱ 群病院

機能評価係数 Ⅱ 0. 0662

Ⅱ 群病院(99病院) 中

6位

自治体病院ではトップ

○ 平成27年度

機能評価係数 Ⅱ 0. 0666

Ⅱ 群病院(99病院) 中

6位

引き続き自治体病院トップ

次年度に向け

・機能評価係数確保に努力

・Ⅱ 群病院を維持するために

診療密度等に留意



病院機能評価

- (公財) 日本医療機能評価機構による
病院機能評価
平成27年1月に受審
第3世代(3rdG:Ver1.0)
- 高評価を得た
全体88項目中 S:3、A:69、B16
- 準備過程や受審において、
改めて各セクションの業務を
見直す良い機会となった。

臨床研修評価

- 卒後臨床研修評価機構による
臨床研修評価
平成27年3月に調査
- 「認定4年」の
評価を得た。



地域医療構想

中央病院を取巻く環境の変化

- 地域医療構想
(平成29年度末までの早期に策定)
 - ・2025年に向け、医療機能毎に
病床の必要量を推計
 - ・徳島県では、高度急性期
＋急性期病床が約4割減に。
- 新公立病院改革ガイドライン
(平成28年度末までの早期に策定)
 - ・経営の効率化
 - ・新要素：
地域医療構想を踏まえた
役割の明確化
- 中央病院を巡る環境は、
人口の変遷
診療報酬等の改訂 等
過去に例のない激変を迎えるなか
- 地域医療構想策定に主体的
かつ積極的に参加
- さらなる収支改善への努力
院内に、病棟、外来等の
各WGを設置し、
年内を目処に改革プランを策定



3 病院はひとつ

中央から、三好、海部への医師派遣

○ 三好病院へ

- ・泌尿器科:ほぼ毎日
- ・消化器内科、循環器内科:
週二回
- ・放射線:週一回＋半日
- ・外科、精神神経科、血液内科:
週一回
- ・糖尿病内科:月二回
- ・8月では、延べ57人派遣

○ 海部病院へ

- ・泌尿器科、皮膚科:週一回
両診療科はこの診療のみ
- ・耳鼻咽喉科、消化器内科:
週一回
- ・糖尿病内科 月一回
- ・8月では、延べ16人派遣



県立 3 病院の継続的な病院運営を目指して

- 収益の確保
- 費用の削減
- 地域との連携

- 地域医療構想
- 地域医療連携推進法人
- 新公立病院改革ガイドライン



～三好病院～

平成26年度の足跡

徳島県立三好病院
院長 住友 正幸

徳島県立三好病院の基本方針

- 地域に「信頼」される病院創り
 - －明日のために必要なのは「ゆめ」
 - －いま必要なのは「やさしさ」

「徳島県病院事業経営計画」

戦略1 医療の質の向上

- 1 質の高い医療の提供
- 2 思いやりのある医療の提供
- 3 安全・安心な医療の提供
- 4 医療人材の育成・確保

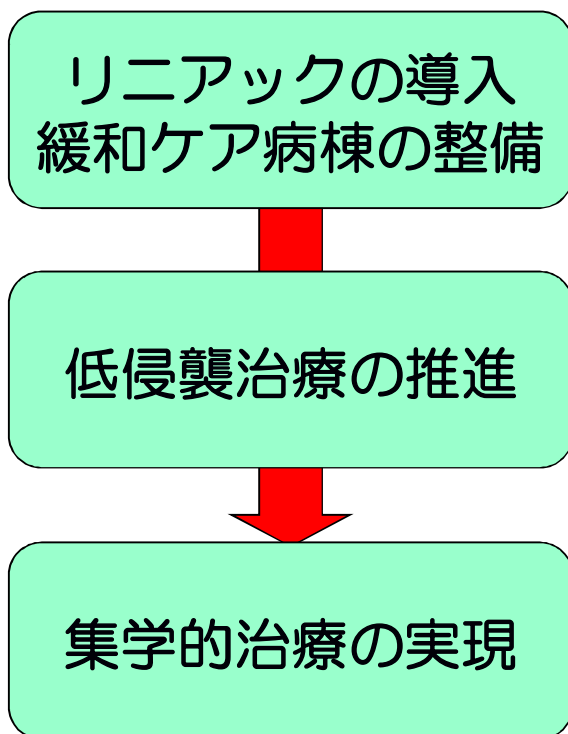
戦略2 経営財政基盤の強化

- 1 収入確保の強化
- 2 経費削減の強化

平成26年8月24日
入院棟運用開始



『フルセットのがん医療』

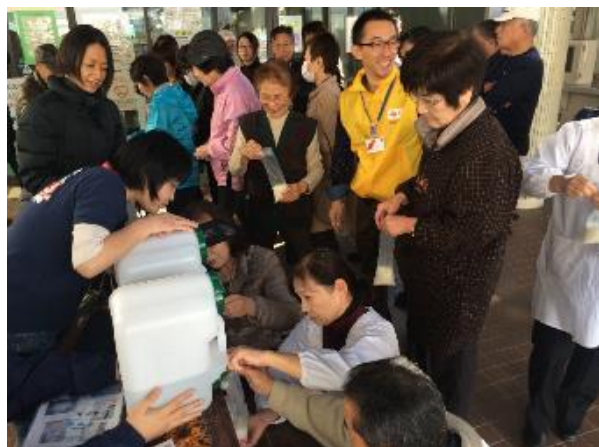


がん医療の 更なる発展

- **手術療法**
内視鏡手術（粘膜層下剥離術など）
鏡視下手術（標準治療として）
- **放射線療法**
集学的治療から緩和まで
- **緩和ケア**
在宅を考慮した緩和ケア
がんから全疾患へ緩和普及
- **化学療法**
EBMによる標準化

「地域がん診療病院」の承認（平成27年3月31日付）

市民勉強会の開催



「市民勉強会 in 三好病院」

第1回（2014年11月22日）炊き出し訓練

第2回（2015年3月14日）避難所勉強会

「出前講座」

第1回（2015年4月19日）池田町婦人会

第2回（2015年4月25日）三縄婦人会

第3回（2015年4月28日）箸蔵婦人会

第4回（2015年5月27日）東みよし町身体障害者総会

第5回（2015年9月24日）東みよし町民生委員会

第6回（2015年11月13日）池田高校

「災害と介護支援 講演会」

第1回（2015年7月8日）いきいきサロン山城

第2回（2015年7月9日）三好市保健センター

第3回（2015年7月21日）東みよし町役場三加茂庁舎

「災害対策 勉強会」

（2015年1月22日）西部圏域災害対策勉強会

（2015年10月23日）在宅酸素研究会

（2015年11月29日）山城町

「三好病院市民公開講座 ー地域包括ケアー」

（2015年11月29日）池田総合体育館サブアリーナ



教育・人材育成

^あ^わ ^い^け^だ 徳島・池田から始める地域医療

- 救急を含む総合医療に対応できる医師の育成
- 地域の医療向上を図れる体制の構築

協力型研修病院としての研修医の受入（10名）

総合診療科の開設

H27.4

専門看護師の育成

- 救急看護や緩和ケアなど専門性の高い看護師の育成・確保（H27.8現在 認定看護師 8名）

総合診療科

モーニング・カンファランス風景
毎朝8:00~8:30



急性期病院として

- 平均在院日数の適正管理
- 病床利用率の向上
- 地域医療機関との連携推進
 - 地域医療支援病院の維持

紹介率50%プロジェクト発動中

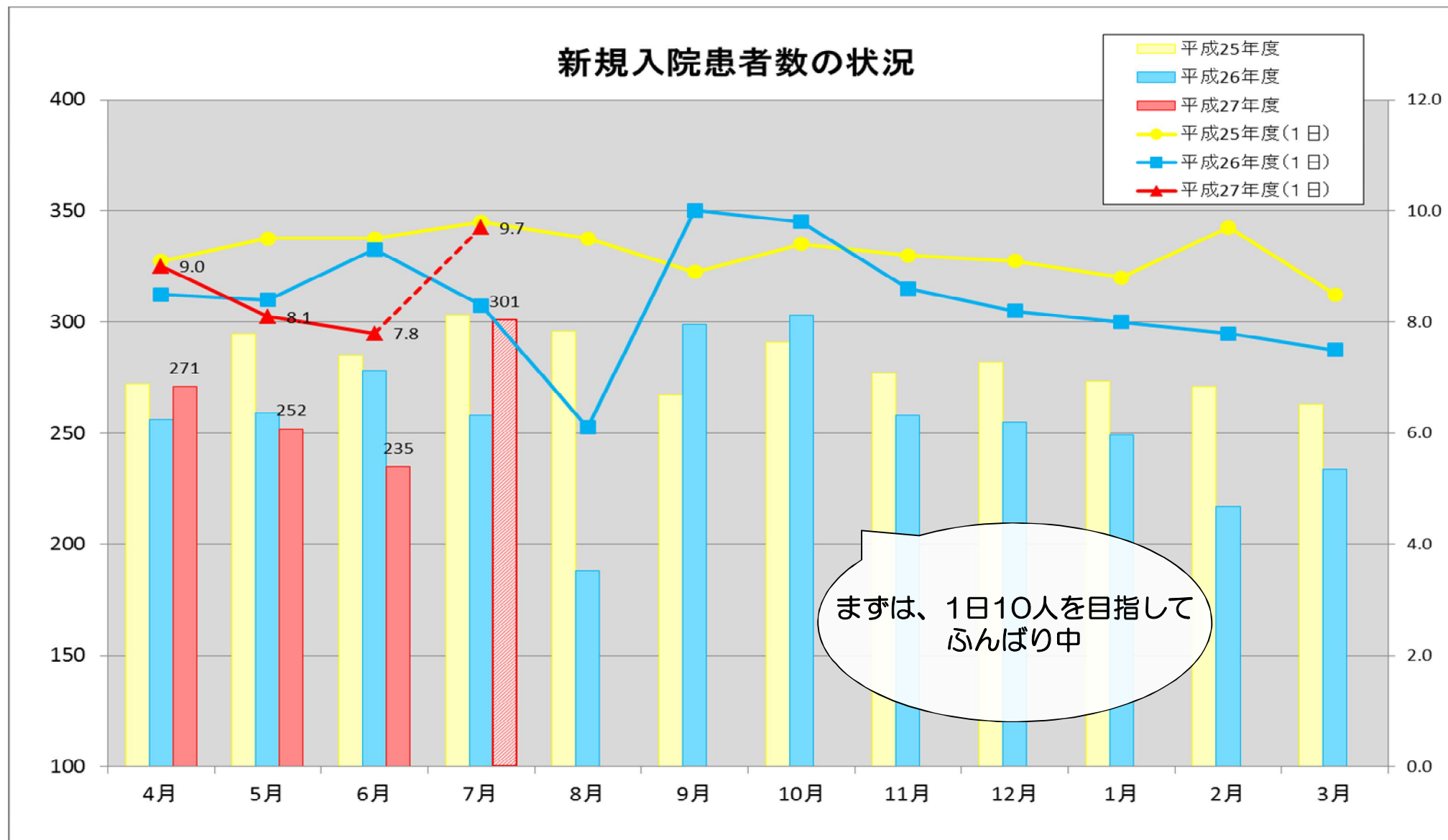
平均在院日数の状況 (日)



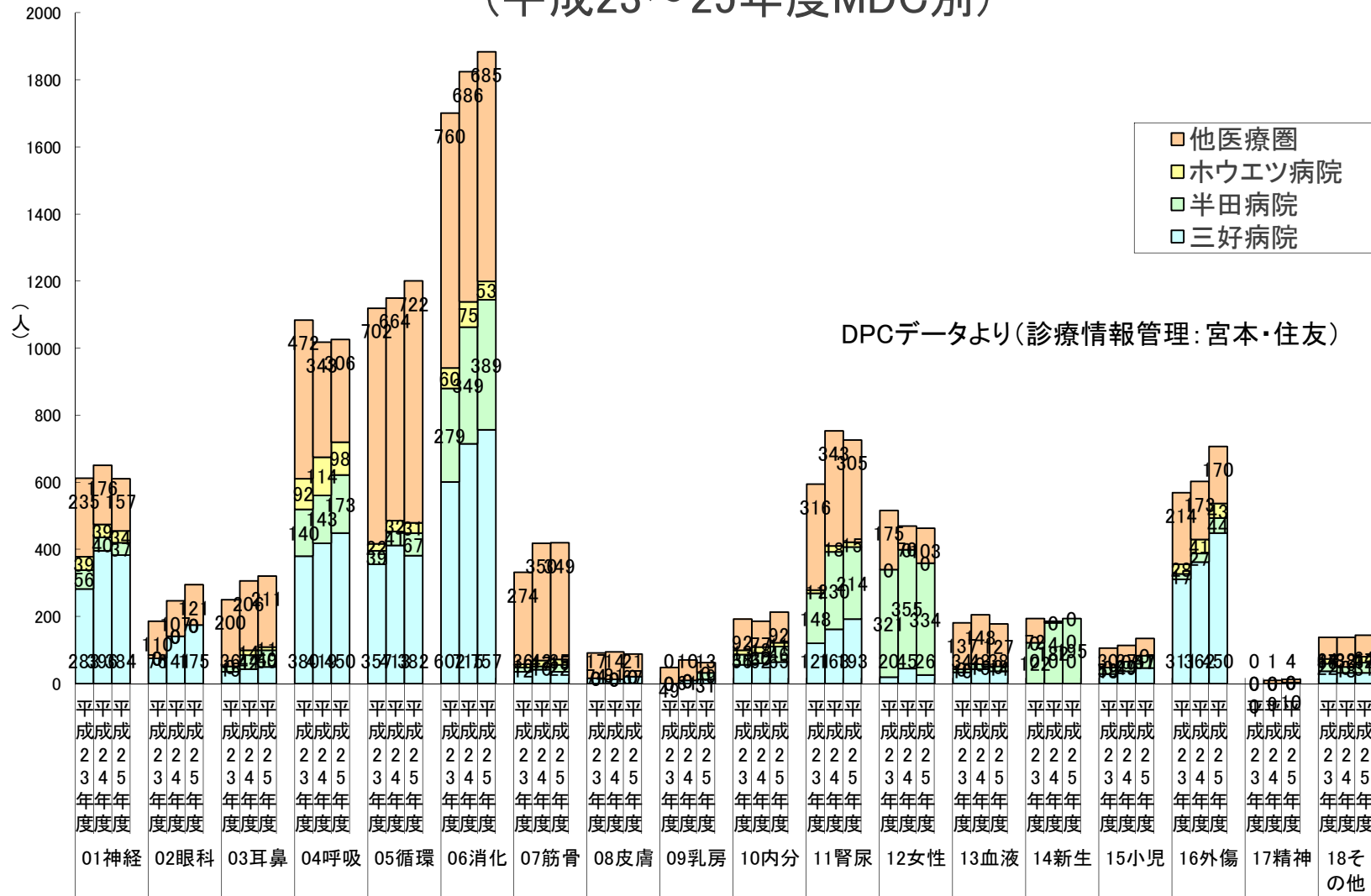
平成26年度 入院患者の状況



• 新規入院患者の変化

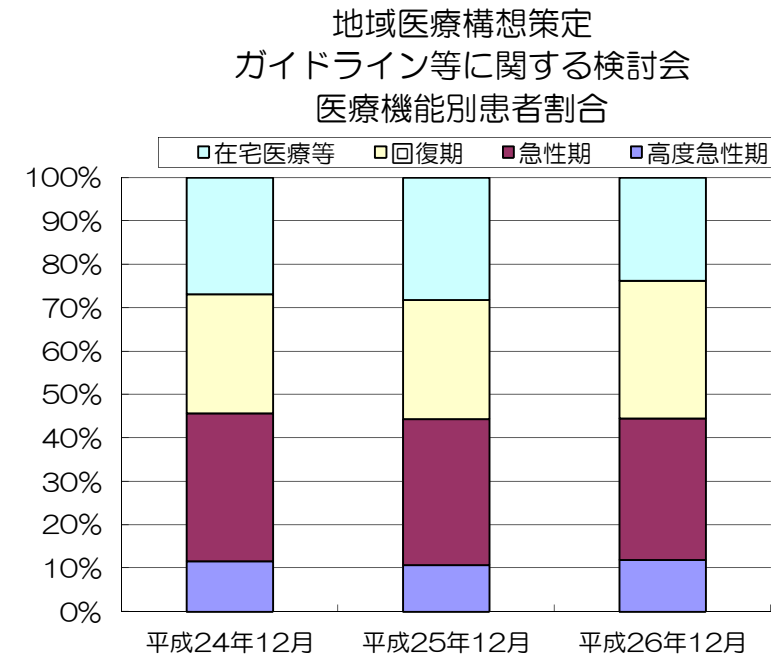


西部医療圏における三好病院シェア (平成23～25年度MDC別)



「今日」の三好病院

- 地域の「信頼」獲得へ
 - 地域住民との連携・「やさしさ」運動
- 急性期医療と亜急性期の混在
 - 10：1病床、地域としてのリハビリ不足
- 西の砦としての救急医療
 - 日本救急医学会認定施設（2014年）
 - 日本航空医療学会認定申請中（2015年）
- 地域医療人の育成
 - 県立中央病院・徳島大学病院からの研修医派遣、学生実習
- 地域包括ケアシステムへの参画
 - がんを中心とするエンドオブライフ・ケアのサポート
 - 旧三好郡域での25%の看取り



「あした」の三好病院

- 急性期医療と在宅への橋渡し
 - 7：1 病床 + 13：1 地域包括ケア
- 西の砦としての救急医療
 - 救命救急センター維持とメディカルイ
- 地域医療人の育成
 - 初期研修プログラム上梓（2016年度）
 - 東西祖谷診療所・三野病院・半田病院との人材乗り入れ
- 地域包括ケアシステムの中心部？
 - 人口減少の中での地域の健康支持
 - ライフ・プラン、エンドオブライフ・ケアの底支え
 - 訪問看護・訪問診療による「急性期後在宅」のサポート
- 外来棟の改築・・・？

地域を守り、地域に守られる病院に





Our Mission...

- 医療は...
 - やさしさに始まり
 - やさしさに終わる
- 強さも夢もそのための方便
- そして
「信頼」される病院になる！



徳島県立海部病院

ー平成26年度の取り組みー

資料 3



病院長：坂東 弘康

海部郡地域包括ケアフォーラム



平成26年9月28日(日)
牟岐町海の総合文化センター

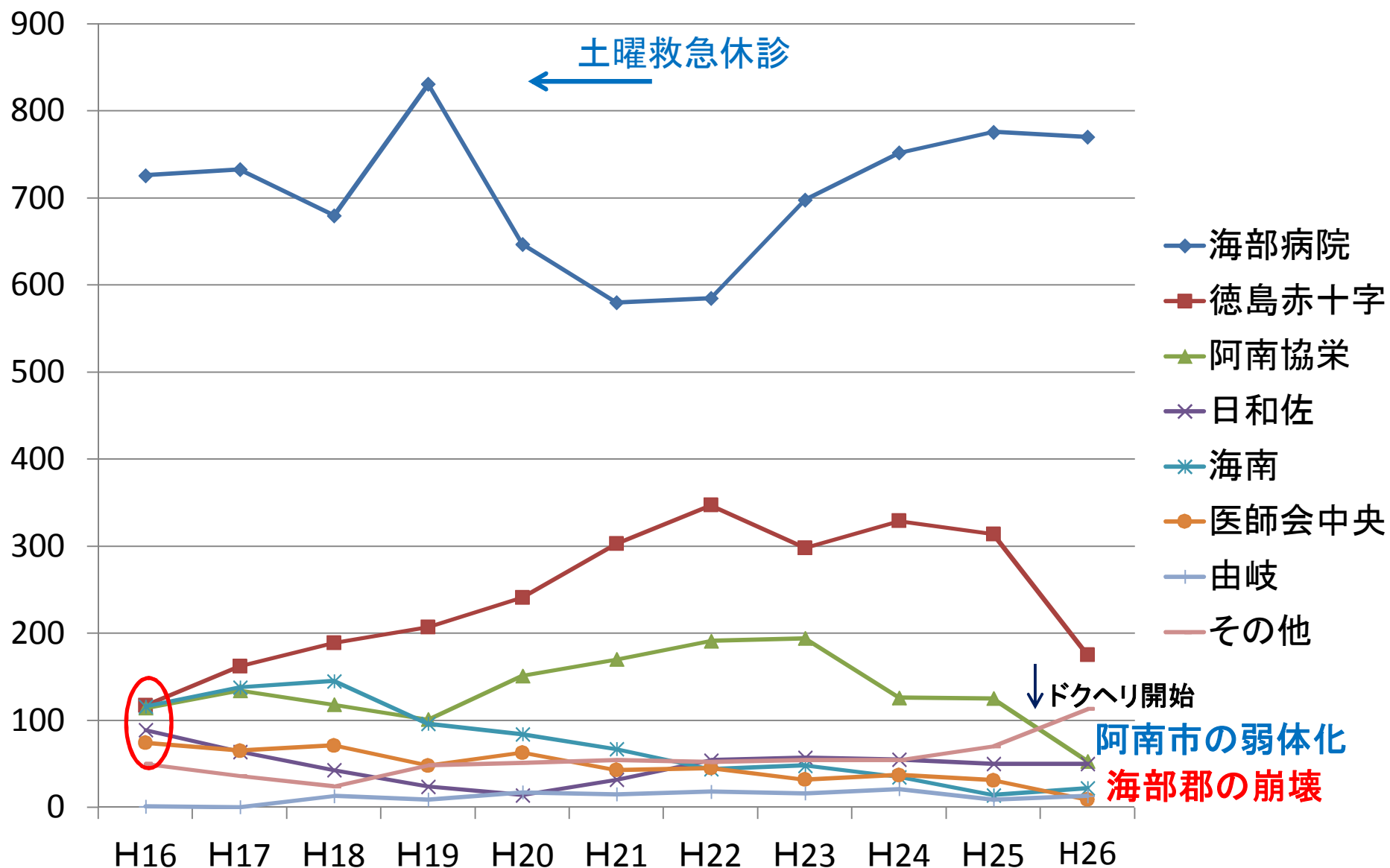


救急医療

H23年11月:土曜日の救急診療を再開

H24年10月:ドクターヘリの運用開始

海部消防組合



徳島県立海部病院遠隔診療支援システム

"k-support"

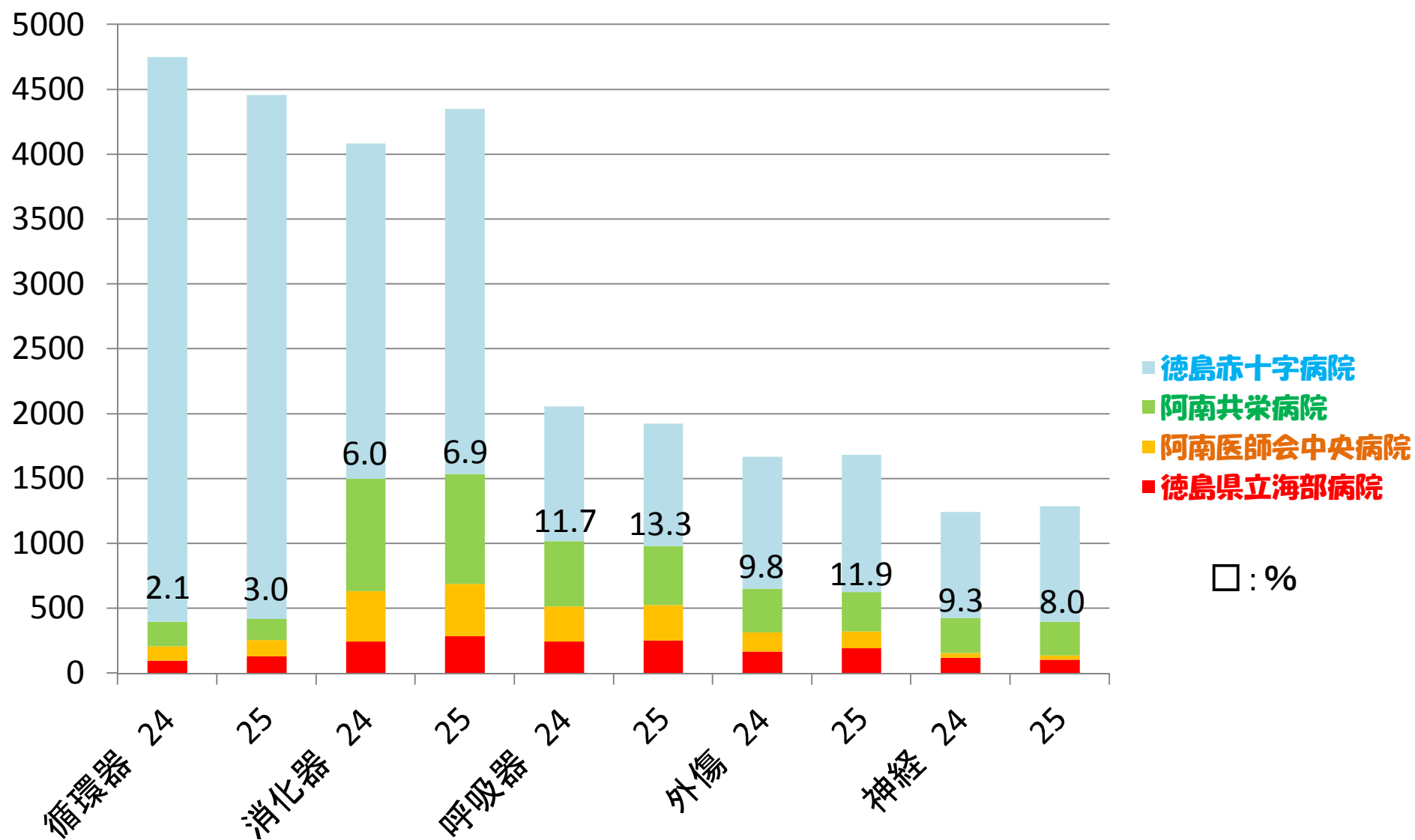
那賀町へ拡大



家（海南消防
南消防署、高

県南部の医療需要と供給

MDC上位5疾患



分娩再開・継続

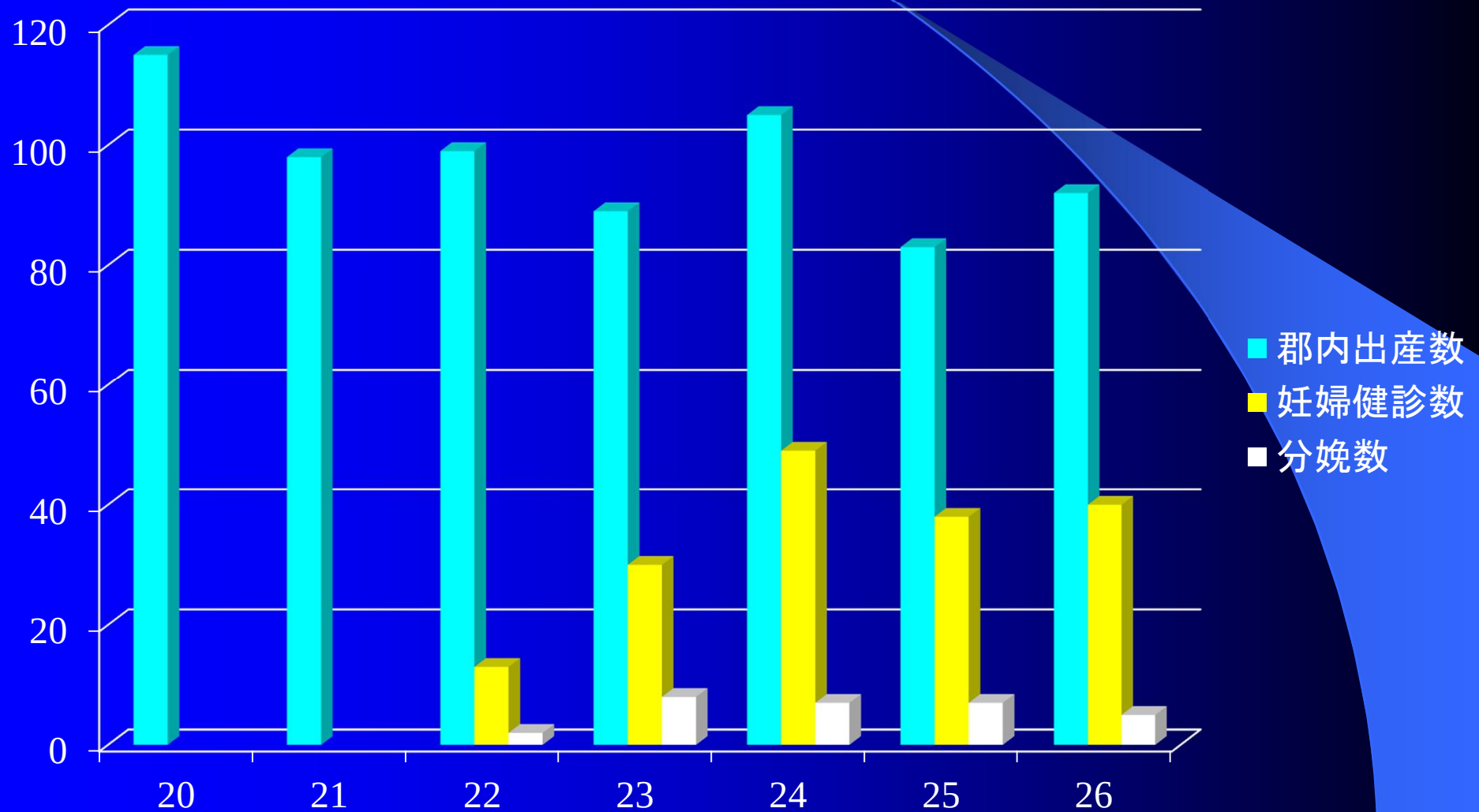
H22.11月

3年5ヵ月ぶり

3月23日に29例目の男児が誕生



分娩再開・継続



訪問医療

- 訪問看護：H21年度から
- 訪問診療：H22年度から
- 訪問リハビリ：H22年度から

訪問医療



訪問看護



訪問診療

在宅での看取り

H23年度： 4件

H24年度：12件

H25年度：10件

H26年度：21件



訪問リハビリ

総合診療医の育成道場

新たな専門医制度

サブスペシャリティー領域専門医
取得のための研修 (3年以上)



基本領域専門医取得のための
研修 (3年以上)



初期臨床研修 (2年)

サブスペシャリティー領域 (17領域)*

▽消化器病 ▽循環器 ▽呼吸器 ▽血液 ▽内分泌代謝科
▽糖尿病 ▽腎臓 ▽肝臓 ▽アレルギー ▽感染症 ▽老年病 ▽神経内科
▽消化器外科 ▽呼吸器外科 ▽心臓血管外科 ▽小児外科 ▽リウマチ

*2013年4月1日時点。今後さらに増える可能性がある。

基本領域 (19領域)

▽内科 ▽小児科 ▽皮膚科 ▽精神科 ▽外科 ▽整形外科 ▽産婦人科 ▽眼科 ▽耳鼻咽喉科 ▽泌尿器科 ▽脳神経外科 ▽放射線科 ▽麻酔科 ▽病理 ▽臨床検査 ▽救急科 ▽形成外科 ▽リハビリテーション科 ▽総合診療

地域医療実習

町立由岐病院

県立海部病院

町立阿部診療所

美波町

魅力的な後期研修医プログラム

町立穴喰診療所

町立海南病院

ぽかぽか

海部郡内の様々な医療施設をローテーション研修します

総合診療医を育成

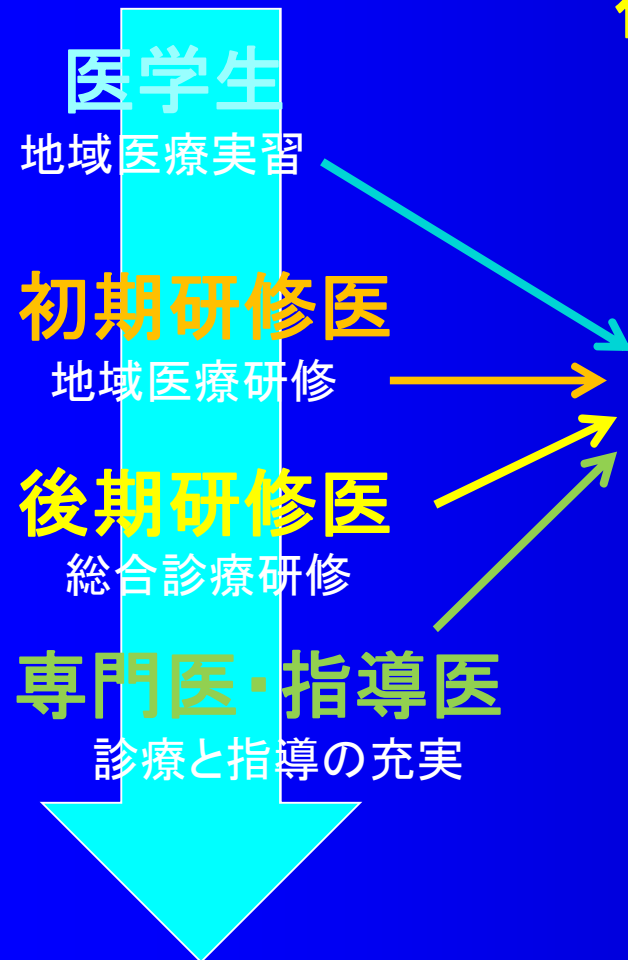


徳島県立海部病院



海部病院の機能の充実

医師のキャリア形成



徳島大学

中央病院

海部病院

地域医療研究センター

赤十字病院

救急・急性期医療
離島診療
災害拠点病院
訪問医療

診療所
病院

研修派遣

北野病院
音羽病院
亀田病院

海部モデルの創造！



先端災害医療拠点

新病院はツインヘリポート



地域医療研究センター

地域医療
研究センター



平成 2 7 年 度

徳島県病院事業 経営計画の取組状況

経営計画の評価について

1. 評価の考え方

徳島県病院事業経営計画で定めた経営指標，具体的取り組みの進行状況进行评估するものとする。

2. 評価方法

経営計画で定めた目標，取り組み内容について，進行度の自己評価を下記の基準で行い，各委員により御意見をいただく。

3. 進行度の評価基準

- A : 達成又は順調
- B : ほぼ順調
- C : 努力を要する
- : その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）

進行度の自己評価

計画の26施策について、
平成26年度の実施状況の自己評価を実施

○ ①評価 19施策(73.1%)

○ ②評価 7施策(26.9%)

○ 「③評価」、「その他」は該当無し

項目：質の高い医療の提供(1)
高度先進医療・臨床研究の充実

自己評価

A

(H26 実績概要)

中央病院 ○内視鏡下手術支援ロボット(ダヴィンチSi)を導入
(手術実績23件)

○リニアック、PET-CTによる高精度な治療や検査の実施

三好病院 ○緩和ケア病棟の開設、放射線治療の開始、フルセットの
がん医療体制の構築

○中央病院とグループ化による地域がん診療病院の承認

海部病院 ○がんの化学療法を推進

項目：質の高い医療の提供(4)
地域医療連携の充実

自己評価

B

(H26 実績概要)

中央病院 ○紹介率 **79.8%**(平成30年度目標 **80%**)
○逆紹介率 **138.3%**(平成30年度目標 **120%**)

三好病院 ○紹介率 **40.4%**(平成30年度目標 **50%**)
○逆紹介率 **96.6%**(平成30年度目標 **70%**)

海部病院 ○紹介率 **28.8%**(平成30年度目標 **40%**)
○逆紹介率 **33.1%**(平成30年度目標 **40%**)

○海部病院では、訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進
訪問看護625件、訪問診療146件、在宅看取り21件の実績 5

項目：思いやりのある医療の提供(5)
快適な病院環境整備の推進

自己評価

A

(H26 実績概要)

中央病院 ○外構設計に着手、平成27年度に外構工事着手の予定

三好病院 ○平成26年10月から路線バスの構内乗り入れ開始
○バス停から正面玄関まで点字ブロックを設置

海部病院 ○高台移転について、平成27年3月に建築工事の契約締結、平成28年度の完成を目指している

項目：安全・安心な医療の提供(1)
災害医療提供体制の強化

自己評価

A

(H26 実績概要)

中央病院 ○ DMAT数 4チーム(平成30年度目標 5チーム)

三好病院 ○ DMAT数 2チーム(平成30年度目標 3チーム)

海部病院 ○ DMAT数 1チーム(平成30年度目標 2チーム)

○各病院で、災害用医療資機材や災害用食料品を整備

○三好病院では、平成26年8月に、免震構造を採用し、屋上ヘリポートを備えた新高層棟が開院

○海部病院では、高台(海拔約15.6m)への移転を進めており、新病院には、ヘリポートや太陽光発電設備を整備

項目：医療人材の育成・確保(2)
地域医療研修の充実

自己評価

A

(H26 実績概要)

○臨床研修指導医数 **96名** (平成30年度目標**120名**)

(各病院の臨床研修指導医数)

- ・ 中央病院 77名
- ・ 三好病院 17名
- ・ 海部病院 2名

病院局全体

○初期・後期臨床研修医数 **39名** (平成30年度目標**45名**)

○三好病院、海部病院では臨床研修病院(協力型)として、初期・後期臨床研修医12名(三好病院)、19名(海部病院)を受け入れ

項目：医療人材の育成確保(4)
医師、看護師等の勤務環境の改善・充実

自己評価

A

(H26 実績概要)

○医師事務作業補助者数 **40名** (平成30年度目標**50名**)
(各病院の医師事務作業補助者数)

病院局全体

- ・ 中央病院 29名
- ・ 三好病院 8名
- ・ 海部病院 3名

○中央病院では、平成26年5月に、院内保育所を新築オープン
(定員80名)

項目:収入確保の強化(1)
急性期医療の重点化

自己評価

A

(H26 実績概要)

中央病院 ○平均在院日数 **9.7日**(平成30年度目標 **9.5日**)
○1日平均新規入院患者数 **30.9名**
(平成30年度目標 **35.0名**)

三好病院 ○平均在院日数 **16.1日**(平成30年度目標 **14.0日**)
○1日平均新規入院患者数 **8.4名**
(平成30年度目標 **11.6名**)

項目：経費削減の強化(1)
後発医薬品の採用

自己評価

A

(H26 実績概要)

中央病院 ○後発医薬品割合 68.4% (平成27年度目標 60%)

三好病院 ○後発医薬品割合 63.9% (平成27年度目標 60%)

海部病院 ○後発医薬品割合 82.2% (平成27年度目標 60%)

○病院局では、後発医薬品割合について、ホームページにおいて公表

項目：経費削減の強化(2)
医療器械等の共同購入の推進

自己評価

B

(H26 実績概要)

病院局全体

○医薬品の採用品目数 **1,869品目**
(平成28年度目標 **1,000品目**)

○医療材料の共同購入品目数 **168品目**
(平成30年度目標 **130品目**)

○医療器械等については、
・ 過酸化水素ガス滅菌装置(中央・三好)
・ ビデオ会議システム(三好・海部・本局)
を共同購入

平成26年度の病院事業収支は・・・

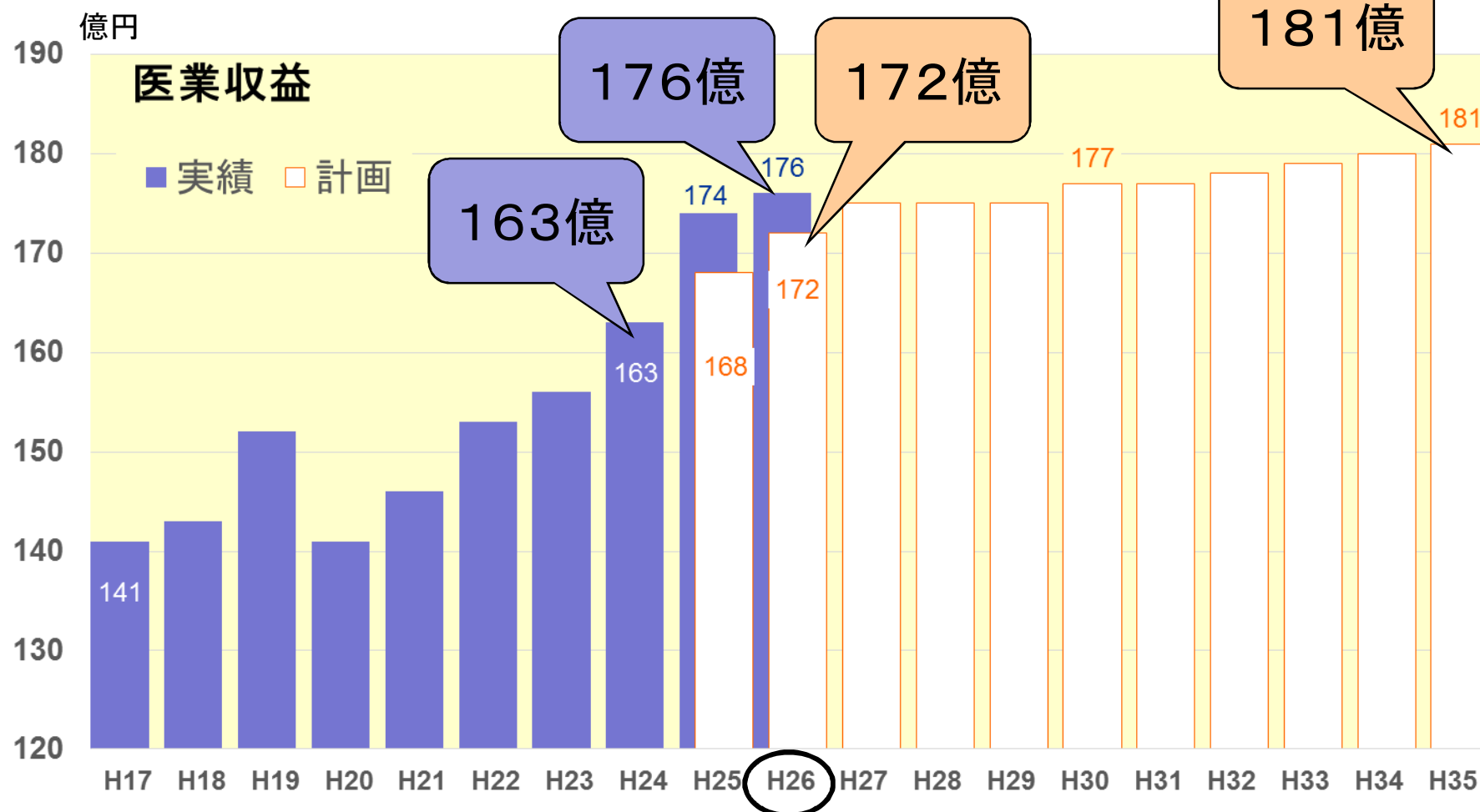
病院事業収益 210.4億円(前年度比:約16.1億円増)

病院事業費用 224.9億円(前年度比:約27.7億円増)

事業収支 ▲14.5億円

医業収益は増加傾向を維持

目標 増益体質を維持し、H24から10年間で18億円の増益を目指す
H26 目標額を4億円上回る



費用額の増の主な内容は……

平成26年度のみ増加要因として、前年度比＋10.1億円

- 新会計制度による6月賞与に係る賞与・法定福利費引当金計上の義務化（＋約5.5億円）
- 中央病院の旧館、三好病院の医療機器等の除去損（＋約3.1億円）
- 三好病院の新高層棟の供用開始に伴う移転費用等の臨時的な経費（＋約1.5億円）

上記以外の主な増加要因として……

減価償却費・企業債利息（＋4.1億円）、消費税の改正（＋2.5億円）等

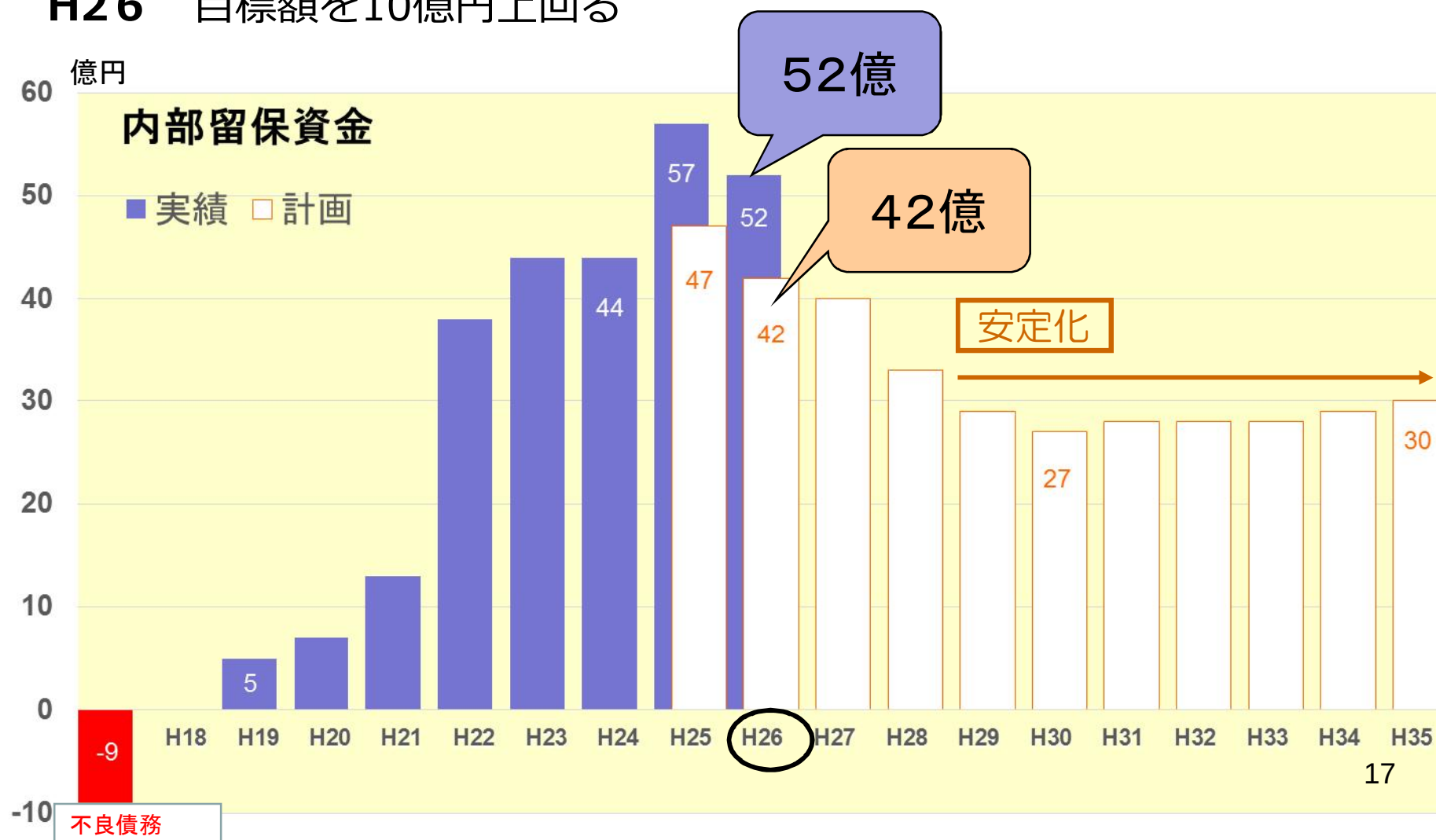
経営計画 収支計画との比較(平成26年度決算)

(単位: 百万円)

区分		H25決算	H26決算 (A)	H26計画 (B)	(A) - (B)
総収益	医業収益	17,431	17,603	17,166	437
	医業外収益	2,002	3,439	2,629	810
	特別利益	0	0	0	0
	総収益 計	19,433	21,042	19,795	1,247
総費用	医業費用	18,745	20,398	19,583	815
	(うち給与費)	10,061	10,793	10,350	443
	(うち退職引当金)	217	223	236	▲ 13
	(うち賞与引当金)	0	476	0	476
	(うち法定福利費引当金)	0	78	0	78
	(うち減価償却費)	1,540	1,916	1,565	351
	医業外費用	979	1,243	943	300
	特別損失	0	858	300	558
	総費用 計	19,724	22,499	20,826	1,673
純損益		▲ 291	▲ 1,457	▲ 1,031	▲ 426
内部留保資金		5,664	5,213	4,194	1,019

内部留保資金（事業継続の安定性を示すバロメーター）は・・・

目標 病院改築に係る償却を行っても、内部留保資金の黒字を維持する
H26 目標額を10億円上回る



新たな公立病院改革ガイドラインについて

1. 総務省により平成27年3月に策定
2. 地方公共団体に対して新公立病院改革プランの策定を要請
 - ①策定時期 平成27年度又は平成28年度
(地域医療構想の策定状況を踏まえつつ、できる限り早期に策定)
 - ②プランの期間 策定年度～平成32年度を標準
 - ③プランの内容 旧ガイドラインに示している3つの視点に、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を追加

【地域医療構想】

- ・ 都道府県において策定
- ・ 二次医療圏ごとに2025年の「医療需要」、「目指すべき医療提供体制」等を示す

新公立病院改革プランの内容

4つの視点

- 経営の効率化
経常収支の黒字化を目指して、経常収支比率等の数値目標を設定し、経営を効率化する
- 再編ネットワーク化
病院間で機能の重複・競合が見られる病院、病床利用率が低水準の病院等の再編ネットワーク化を引き続き推進
- 経営形態の見直し
地方独立行政法人化・指定管理者制度等の経営形態の見直しを引き続き推進
- 地域医療構想を踏まえた役割の明確化 **新**
地域医療構想で示す将来の医療需要・医療機能ごとの病床数との整合性がとれた形での病院の具体的な将来像

徳島県病院事業経営計画進捗状況 自己評価（平成26年度）

資料 5

◆ 評価基準

- ①：達成又は順調
- ②：ほぼ順調
- ③：努力を要する
- ④：その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）

◆ 「医療の質の向上」における進捗状況

施策項目	取組施策	自己評価	ページ
○ 質の高い医療の提供			
(1)	高度先進医療・臨床研究の充実	A	1
(2)	I C T（情報通信技術）の活用	A	3
(3)	チーム医療の推進	B	5
(4)	地域医療連携の充実	B	7
(5)	病院機能評価の継続受審	A	9
○ 思いやりのある医療の提供			
(1)	患者・職員の満足度の向上	A	10
(2)	患者さんの信頼を得る医療の推進	A	12
(3)	住民に開かれた病院運営	A	13
(4)	広報活動の充実	B	14
(5)	快適な病院環境整備の推進	A	15
○ 安全・安心な医療の提供			
(1)	災害医療提供体制の強化	A	16
(2)	危機管理への対応力の強化	A	18
(3)	医療安全対策の推進	A	20
(4)	院内感染対策の推進	A	21
○ 医療人材の育成・確保			
(1)	医師の確保と育成	A	22
(2)	地域医療研修の充実	A	24
(3)	スペシャリストの養成	A	26
(4)	医師、看護師等の勤務環境の改善・充実	A	28

◆ 「経営財政基盤の強化」における進捗状況

施策項目	取組施策		
○ 収入確保の強化			
(1)	急性期医療の重点化	A	30
(2)	D P C分析による経営戦略の強化	A	31
(3)	診療報酬制度への戦略的な取組	A	32
(4)	未収金の発生防止と回収促進	B	34
○ 経費削減の強化			
(1)	後発医薬品の採用	A	36
(2)	医療器械等の共同購入の推進	B	37
(3)	病院資産の有効活用	B	38
(4)	管理業務の検証	B	39

平成26年度経営計画実績

質の高い医療の提供 項目（１）	高度先進医療・臨床研究の充実	④	達成又は順調	実績の評価 ④
		③	ほぼ順調	
		②	努力を要する	
		①	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

各病院において、高度技術を要する内視鏡手術、鏡下手術、インターベンション医療（連続血管撮影装置等を利用した血管内治療法）、脳卒中における血栓溶解療法（t-PA療法）等、積極的な医療の推進を図ります。また、今後とも高度医療機器の計画的な整備を行い、効率的な使用や地域医療連携においても一層の活用を図ります。

中央病院では、手術支援ロボットの導入による低侵襲手術、リニアックによる高精度放射線治療やPET-CTによる精度の高いがん検査等の高度医療の推進に取り組めます。また、高度急性期病院として、医療技術の向上や医療機能の高度化を目指し、新薬開発のための治験を積極的に行っていくとともに、疾病の予防やよりよい診断や治療を目指す臨床研究に取り組むため、その拠点となる臨床研究部門の設置を検討します。

三好病院では、がんにおける手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療（集学的治療）を行うほか、県内の公的病院では初となる専門的な緩和ケア病棟を開設し、県内の緩和ケア水準の向上等を図ります。

海部病院では、マルチCTシステムの導入による虚血性心疾患の診断を行うとともに、がんの化学療法の推進に取り組めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (高度先進医療・臨床研究の充実)
中央病院	高度医療機器については、計画的な整備を進め、平成26年度においては、内視鏡下手術支援ロボット（ダヴィンチS i）を導入するとともに、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。また、治験を積極的に行った。 【平成26年度の実績】 ○内視鏡下手術支援ロボット 23件 ○MRI（磁気共鳴断層撮影装置）2台、単純MR 4,418件、造影MR 1,140件 ○PET-CT 1,450件 ○256列CT（X線コンピューター断層撮影装置） 単純CT 11,203件、造影CT 3,311件、冠動脈造影CT 422件 ○リニアック（放射線治療装置）2台 5,677件（うち高精度放射線治療152件） ○治験 新規受託件数 11件（製造販売後調査含む） 治験収入 24,966千円（同上）

本局・各病院	平成26年度の実績 (高度先進医療・臨床研究の充実)												
三好病院	内視鏡手術、鏡下手術、インターベンション医療（連続血管撮影装置等を利用した血管内治療法）、脳卒中における血栓溶解療法（t-P A療法）等、標準化を目指し、積極的な医療の推進に努めた。 また、医療機器については、計画的な整備を進め、平成26年度においては、リニアックの新設や、MRI、CT等を更新した。 さらに、がんに関しては、手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療（集学的治療）を開始し、県内の公的病院では初となる専門的な緩和ケア病棟を開設するなど、フルセットのがん医療体制が整った。また、県西部で唯一の「地域がん診療病院」の承認を得た。												
海部病院	マルチCTシステムについては、新病院開院に併せた導入に向け、医療器械等整備計画に位置づけた。 がんの化学療法の実施状況については <table><tr><td></td><td>平成25年度</td><td>平成26年度</td><td>前年累計比</td></tr><tr><td>外来</td><td>103件</td><td>101件</td><td>98.1%</td></tr><tr><td>入院</td><td>51件</td><td>55件</td><td>107.8%</td></tr></table> となっている。 平成23年度に更新した内視鏡システムは、高精細画像が提供できるようになり診断の向上により、実施件数は、年々増加しており、平成26年度は前年度比110%と大幅に増加した。また、平成24年度に購入した画像取り込み装置により画像の転送、観察環境が整い、本システムのさらなる有効活用が期待できる。 平成24年度から本格稼働を始めた新MRI装置は脳神経外科を中心に活用されており、毎年増加傾向にあり、平成26年度は、前年度比5.7%増の検査を実施した。 今後もこれら高度医療器械及び中央病院との間で構築している遠隔画像診断システムを活用し画像診断機能の向上を図りたい。		平成25年度	平成26年度	前年累計比	外来	103件	101件	98.1%	入院	51件	55件	107.8%
	平成25年度	平成26年度	前年累計比										
外来	103件	101件	98.1%										
入院	51件	55件	107.8%										

平成26年度経営計画実績

質の高い医療の提供 項目（2）	I C T（情報通信技術）の活用
--------------------	------------------

①	達成又は順調
②	ほぼ順調
③	努力を要する
④	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）

実績の評価
A

経営計画内容

県立3病院において、引き続き、電子カルテシステムを中心とした医療情報システムの運用、充実により、院内における診療情報の共有化を図り、効率的な病院運営を目指します。

また、医療情報システムを統一し、遠隔画像診断や診療連携を推進するとともに、I C Tの進展や医療環境の変化に対応して適宜システムの見直しを図ります。

総合メディカルゾーン本部を核とした医療連携を強化するため、徳島県鳴門病院や徳島大学病院をはじめ、地域の医療機関との連携を目指し、地域医療ネットワークの整備等、医療情報基盤を整備していきます。

さらに、海部病院における「海部病院遠隔診療支援システム（Kサポートシステム）」の取組み成果を踏まえ、今後、スマートフォンやタブレット端末を活用した当システムの一層の推進を検討していきます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (I C T（情報通信技術）の活用)
病院局 【目標】 県立3病院の医療情報システムの統一 (平成30年度)	平成30年度の県立3病院の医療情報システムの統一に向けて検討を行うために、主要電子カルテベンダからヒアリングを行った。 また、三好病院の電子カルテシステムにおいては、新高層棟への移転とともに、次期システム更新までの過渡的更新として、老朽化したハードウェア部分などの最小限の更新が行われた。 さらに、県立3病院及び本局でテレビ会議を行うために、整備済みの中央病院に続き、三好病院、海部病院、本局にテレビ会議システム（ビデオ会議システム）を導入した。
中央病院	電子カルテシステムに総合診療科、血液内科、糖尿病・代謝内科を追加することで標榜科への対応を図った。 また、電子カルテシステム及び医事会計システムの医療データを外部データセンターに保管し、災害時に参照可能とするBCP対策システムを構築した。サーバ故障によりデータが消失した場合には、バックアップデータによる復旧も行えるため、災害時においても診療の継続が可能となる。 さらに、電子カルテシステムへの返書管理機能の追加やD P C支援システムの導入等を行った。これにより、書類作成・データ入力等の既存業務が効率化され、職員の負担軽減につながった。 医療情報系以外のシステムに関しても、メールサーバ及びウイルス対策サーバの更新を行った。機器の交換に加え、ネットワーク構成を変更することにより、メールデータの流出防止やウイルス対策強化など、セキュリティの向上を図った。

本局・各病院	平成26年度の実績 (I C T (情報通信技術) の活用)
三好病院	新病棟開院及び緩和ケア病棟の新設とともに、電子カルテシステムと連携したナースコールシステムを導入し、電子カルテからの患者情報の受け渡しにより、業務の効率化を図った。 また、放射線治療システムの導入に伴い、中央病院と三好病院を結ぶ遠隔放射線治療計画システム及びネットワーク会議システムを併せて導入した。これにより、遠隔地（中央病院）においても放射線治療計画の作成や放射線治療に関する情報の閲覧・承認が可能となり、患者さんへのサポート体制の強化及び医師の負担軽減に繋がった。 加えて平成25年度に導入した遠隔読影システムについても、医用画像システムをバージョンアップし、画像診断の効率化を図った。 オペレーションシステム及びオフィスソフトのサポート終了に伴うセキュリティ問題に対しても、必要な範囲での電子カルテシステム更新により、必要な措置を行った。 電子カルテシステム以外の I C T の活用例としては、Wifi環境整備が挙げられる。当院は四国中央部の救急医療を担う病院として、救急部門の充実を図るため、救急エリアに、当院の医療スタッフのみならず、応援医師等も利用可能なWifi環境を整備し、利便性の向上を図り、もって患者本位の充実した医療の提供が可能となる環境の整備を行った。
海部病院	平成25年2月より「海部病院遠隔診療支援システム（Kサポートシステム）」の運用を開始し、平成25年9月からは、日和佐消防、牟岐消防、海南消防、室戸消防東洋出張所の各救急隊へと範囲を拡大した。 当院のように医療圏に山間部等の救急搬送に時間を要する地域では、医師による迅速で的確な状況把握が、特に重要であり、時間のロスを最小限に抑え「救える命をひとつでも多く救う」ため、今後も「Kサポート」の有効活用に努めていきたい。 ※ 平成27年3月31日時点での利用実績は、医師の利用が247件、救急隊利用が232件

平成26年度経営計画実績

質の高い医療の提供 項目（3）	チーム医療の推進	(A)	達成又は順調	実績の評価 (B)
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

各病院において多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」に今後も引き続き取り組みます。

各チーム合同によるカンファレンスや研修会を積極的に実施します。（栄養サポートチーム、院内感染対策チーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、排泄ケアチーム、糖尿病チーム、口腔ケアチーム、化学療法推進チーム、ACLSチーム、呼吸サポートチーム、摂食嚥下チーム、周術期管理チーム、DMAT（災害派遣チーム））

また、各職種において、それぞれの専門性を発揮し、患者の疾病や状態に応じた個別の栄養サポートを行い、適切な治療食の提供や早期の経口摂取を促すなどの食事療養を支援する栄養食事指導や検査・レントゲン手帳の取組など、患者さんのQOL（生活の質）を高め、回復力・予防力の向上に貢献する指導や相談事業等を積極的に実施します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (チーム医療の推進)
中央病院 【目標】 薬剤管理指導件数 15,000件（平成30年度）	多職種が、各々の専門性を高める努力を怠らず、チーム活動で専門性を発揮し、協働することで患者さんやご家族に満足いただける医療を提供できるよう努力している。 現在医療チームとしては、栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、院内感染防止対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸サポートチーム、口腔ケアチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなどが医師をリーダーとしてチームカンファレンスや研修会を定期的に開催し、チーム力を高め積極的に活動している。また、各チーム間でも連携を図り、質の高い医療を提供している。 チーム活動の一環として、糖尿病教室やがん患者教室、作業療法内疾病教育の会、アルコールミーティングなどの患者教室を定期的に開催し、地域に貢献している。 医師、言語聴覚士、看護師、管理栄養士が協働し、嚥下テスト、適切な食事選択、食事援助をおこない経口摂取を推進し、患者さんのQOLの向上に努めている。 【薬剤管理指導件数】 11,961件（平成26年度）

本局・各病院	平成26年度の実績 (チーム医療の推進)
三好病院 【目標】 薬剤管理指導件数 3,000件（平成30年度）	患者さんを中心とするチーム医療を推進するため、各職種の代表者で組織された各種チームを設置し、それぞれの専門性を活かし、良質で安全な医療の提供に取り組んでいる。 例えば栄養サポートチームにおいては、治療をより効果的に進めるために、栄養面のリスクアセスメントを行い、栄養面からサポートしている。 その他、SMT（安全管理）、化学療法推進、緩和ケア推進、褥瘡対策・排泄ケア、呼吸ケア、放射線治療推進等のチームが職種間の垣根を越えて、情報交換や相互連携を図り、情報を共有しながら「ファイン・チームワーク」の精神でチーム医療を実践している。 また、有効かつ安全な薬物療法を行うため、服薬指導を実施している。平成24年度は2,397件、平成25年度は2,278件であったが、平成26年度は3,841件と大幅に増え、目標値3,000件を達成することができた。今後も服薬指導を積極的に実施する。 栄養管理科においては、入院患者さんへの栄養指導の実施の他、平成24年度からは医師の協力のもと、患者さんの栄養指導の充実に取り組んでいる。その結果、平成24年度以降、栄養指導件数が目標値の600件を常に超えている。今後も目標達成維持に努めていく。 【薬剤管理指導件数】 3,841件（平成26年度）
海部病院 【目標】 薬剤管理指導件数 1,300件（平成30年度）	多職種間のスペースを埋める連携(薬剤師による持参薬チェックや保管、医師事務作業補助者との共同による書類の一元化等)や情報交換、カンファレンスにより、患者さんにとって効率的で質の高い医療が提供できるよう努めた。 多職種によるNST、褥瘡対策チームが定期的にカンファレンスやラウンドを行い、栄養評価、嚥下テストを行いながら効果的な介入ができた。薬剤管理指導件数は、対前年度比106.2%の1,905件(平成25年度1,794件) 栄養管理指導件数は、対前年度比109.2%の119件(平成25年度109件)実施した。 今後は、必要に応じて患者さんのQOLを高めるための指導や相談事業等を実施していく。 【薬剤管理指導件数】 1,905件（平成26年度）

平成26年度経営計画実績

質の高い医療の提供 項目（４）	地域医療連携の充実	④	達成又は順調	実績の評価 Ｂ
		③	ほぼ順調	
		②	努力を要する	
		①	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

各病院は、地域の医療機関と適切な役割分担と連携を図り、地域連携クリティカルパスの積極的な運用により、地域医療全体の最適化に向けた効率的な取組を実施するほか、各病院の地域医療センター相互の連携強化を図ります。

また、医療、看護、介護、福祉との連携を深め、かかりつけ医に協力をいただきながら、相談体制の充実等、住み慣れた地域で安心して療養生活が送れるよう支援します。

さらに、海部病院においては、地域における在宅医療の充足状況や自宅での看取りに対するニーズを把握し、住民の在宅での療養生活や看取りが可能となるよう、開業医との連携はもとより、自らも訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (地域医療連携の充実)
中央病院 【目標】 - 紹介率 80%（平成30年度） - 逆紹介率 120%（平成30年度）	当院の地域医療連携事業として、①地域の医療機関との連携の推進、②医療・福祉等の相談業務、③地域連携事業講演会の開催、④連携パスの推進、⑤その他、連携に関する業務等に取り組んだ。 ① 地域の医療機関との連携に関して、平成26年度の紹介患者件数は、19,162件と、対前年度比、107.8%の増加となった。 また、平成26年度の当院の紹介率は、79.8%（前年度89.6%）、逆紹介率については、138.3%（前年度99.9%）となった。 ※紹介率・逆紹介率ともH26から計算式が変更されている。 ② 医療・福祉等の相談業務における平成26年度の相談件数は、14,629件で、退院支援をはじめ、経済的な問題や身寄りのない患者さんの相談に対応した。 ③ 地域医療連携事業講演会については、毎月1回、連携医の先生方をはじめ、コメディカルの方々にもスキルアップになるような内容を選び、当院の医師による講演等を開催した。（年12回） ④ 地域連携パスについては、逆紹介推進ツールとして、当院では、肺がん、大腸がん、胃がん、大腿骨頸部骨折、糖尿病、脳卒中、急性心筋梗塞という7つの地域連携パスを運用し、適切な役割分担と連携を進めた。 ⑤ その他の連携に関する業務として、当院の連携医（H26年度末現在530名）への登録を呼びかけるために 病院訪問や広報を行った。 【紹介率】79.8%（平成26年度） 【逆紹介率】138.3%（平成26年度）

本局・各病院	平成26年度の実績 (地域医療連携の充実)
三好病院 【目標】 ・紹介率 50% (平成30年度) ・逆紹介率 70% (平成30年度)	社会的要請や医療・保健環境の特性に応じる地域中核病院機能の取り組みとして、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院との間で、「徳島県西部保健医療圏における適正な医療を確保するための協定書」を締結し、3病院間の協力体制を実施している。 また、急性期医療分野での機能を十分に果たすためには、今後も引き続き診療圏内の病院及び診療所との連携に向けた検討・協議を行うとともに、医師の確保に向けた取り組みを強化する必要がある。 平成26年3月、地域医療支援病院の承認を受け、現在、紹介率の新基準への対応に努めている。 【紹介率】40.4% (平成26年度) 【逆紹介率】96.6% (平成26年度)
海部病院 【目標】 ・紹介率 40% (平成30年度) ・逆紹介率 40% (平成30年度)	「地域連携パス」の運用については、対象病院（徳島赤十字病院・徳島大学病院）に徳島市民病院・阿南共栄病院の2病院が加わり、計4病院となった。平成26年度は、徳島赤十字病院から3名、徳島大学病院から1名、脳卒中連携パスの患者を受け入れ、広域でのパスの統一化に努めた。 また、地域医療連携部門の充実については、平成22年4月に地域支援室を設置し、看護師長を含む3名体制となり、平成23年4月からは当院では最初のメディカルソーシャルワーカーが配属されている。平成26年度は、地域医療連携担当者意見交換会を年2回実施するとともに、毎月、在宅支援連絡会を開催し、地域の医療機関や施設との連携業務の充実を図った。 末期がん等の患者に対する在宅療養支援として、平成21年度に訪問看護と訪問リハビリを開始し、平成22年度には訪問診療も開始している。平成26年度は訪問看護625件、訪問診療146件、在宅看取り21件の実績となった。 今後も、引き続き在宅医療を推進していくとともに、地域の開業医や訪問看護ステーション等との連携体制の充実に努め、患者情報を共有化するなど、的確で効率的なサービスの提供に努めていきたい。 【紹介率】28.8% (平成26年度) 【逆紹介率】33.1% (平成26年度)

平成26年度経営計画実績

質の高い医療の提供 項目（５）	病院機能評価の継続受審	④	達成又は順調	実績の評価 ④
		⑤	ほぼ順調	
		⑥	努力を要する	
		⑦	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

病院機能を第三者が多角的に評価する（公財）日本医療機能評価機構による認定を受けていますが、医療の質の更なる向上や医療の透明性確保に努めるため、継続的に機能評価を受審し、組織的に業務全般にわたる課題を把握し改善を図ります。

本局・各病院	平成26年度の実績 (病院機能評価の継続受審)
中央病院	平成26年度は、平成27年1月26日から27日に新評価項目3rdG Ver. 1.0による更新認定（3回目）及び副機能の初回認定を受審し、平成27年3月に認定された。（認定期間：H27.3.28～H32.3.27） 現在は、規定の内容の実施を促進している。
三好病院	平成22年度にVer. 6.0の認定を受け、これに基づいて病院運営に努めている。平成26年度は次年度更新認定に向け、病院内において委員会の開催、更新受審病院への視察訪問など、職員の意識向上に努めた。
海部病院	平成24年度に「病院機能評価Ver. 6.0」を受審し、医療の質の向上と、地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスの提供に対する日頃の取り組みが評価され、平成25年1月28日より更に5年間の更新認定を受けることができた。 平成26年度は現バージョンの推進、管理、見直しを行うとともに、新バージョンの再認定を受けるため、組織的に基準達成に向けた取り組みを行った。

平成26年度経営計画実績

思いやりのある医療 の提供（1）	患者・職員の満足度の向上	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

患者さんの様々な相談や要望に適切に対応し、安心して診療・治療が受けられるよう、総合相談の窓口において十分な患者サポートに努めます。

毎年度、患者満足度調査を実施し、調査結果の分析・検証を行い、要望・課題について病院内で共有化を図り、ひとつでも多く速やかに改善に結びつけ、患者さんにより一層満足いただけるよう取り組んで参ります。さらに、患者さんの病態や嗜好等に配慮した病院食を提供し、患者のQOLを高めるとともに、県産食材を積極的に活用して行事食や選択メニューの充実を図ります。

また、病院職員が個の人間性を高め、個の能力を伸ばし、患者中心の医療を行うことができるよう、働きやすい環境の整備を図ります。

本局・各病院	平成26年度の実績 (患者・職員の満足度の向上)
病院局	次世代育成支援対策推進法が、法改正により10年延長されたことなどを踏まえ、病院局職員を含む県職員が対象となる、「徳島県特定事業主行動計画」を見直し、平成27～31年度までの新たな計画が策定した。 引き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努めたい。
中央病院	「総合相談窓口」を1階総合案内に設置し、メディカルコンシェルジュを配置している。メディカルコンシェルジュは、患者さんからの相談や質問にお答えするとともに、専門部署への橋渡し役を担っている。 平成26年11月から12月にかけて患者満足度調査を実施し、調査結果については院内WEBや院内の掲示板に掲示して情報共有するとともに、病院ホームページにも掲載した。 がん化学療法等で食欲のない患者さんに対し、随時ベッドサイドにて摂食状況を聞き取り、必要な栄養をできるだけ経口で摂取していただき、栄養状態の改善に寄与するよう、個別対応食に力を入れている。 また、毎月19日前後を「食育の日」として、患者さんに県産品の提供をアピールしている。平成26年度は12回実施、延べ2,941人の患者さんに県産品アピールカードを配布した。 院内保育所を平成26年5月に新築するとともに、幼稚園帰りに利用できる半日保育や1日単位で利用できる臨時保育も実施している。

本局・各病院	平成26年度の実績 (患者・職員の満足度の向上)
三好病院	平成26年8月、がん診療支援センター設置に伴い、がん相談支援センターを併設、相談員を配置し、がん相談の充実を図った。 患者満足度調査を実施し、要望・課題等を共有するとともに、病院に勤務する全ての職員（委託業者含む）を対象に接遇研修を実施して接遇能力の向上を図った。 また、経営戦略会議に市・町・保健所に参加してもらい、地域住民の声を取り入れている。 病院食については、病院食を治療の一環として、できるだけ残さず食べていただけるよう、病棟訪問（週2回）や病院給食へのアンケート調査（年3回）などを実施している。 季節感や楽しさを感じていただくためには、お花見や七夕などの季節催事食や祝祭日の行事食、誕生日カードの添付等に加え、平成26年度は、新高層棟引越祝い膳も実施した。 また、県産食材をアピールした食事「あわっこの日」を月一回もうけ、県産食材を金額ベースで25%以上となるよう努力している。
海部病院	昨年度に引き続き外来満足度調査を実施、概ね良い評価を頂いた。待ち時間に関しては、電話による予約変更や予約枠の見直し、待ち時間表示、患者さんへの声掛け、患者さん向け生活習慣病予防等のビデオ放映などアメニティの改善などを行い、待ち時間が短縮するよう、また、患者さんにとって不快な待ち時間とならないよう努力した。 また、地域住民の要望に応じて理学療法士、看護師が地域に出向き、出前講座も行った。 接遇については、接遇研修を受けた看護師が院内研修会を開催し、職員への意識の向上に努めた。今後も患者さんの視点に立った、ニーズに応えられるようなサービスが提供出来るように努力していきたい。 摂食状況の調査については、昼食時の病棟訪問や昼食後の個別残食調査を実施した。調査により、患者さんの食事の状況を把握し、個別対応することによって喫食率の向上に努めた。 また、郷土食や季節感を取り入れ、年間23回の行事食や手作りのおやつサービスを年間15回実施するなど、行事食等の充実に努めた。

平成26年度経営計画実績

思いやりのある医療の提供（2）	患者さんの信頼を得る医療の推進	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

「インフォームドコンセントの充実」

患者さんやご家族が治療の内容に納得し、安心して治療に専念できるよう、病状や治療計画等について十分に説明する「インフォームドコンセント」に引き続き取り組んでいきます。

「セカンドオピニオンの充実」

治療方針の選択にあたって主治医以外の専門医の意見を聞く「セカンドオピニオン相談」の更なる周知を図り、患者さんはもとよりご家族の不安を解消し、治療に関する自己決定の支援に努めます。

「臨床指標の公表」

各種部門で臨床指標の項目などを定め、診療結果や治療成績、看護指標などの実績について、ホームページ等を通じて県民に公表し、医療の質の向上に努めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (患者さんの信頼を得る医療の推進)
中央病院	患者さんが納得して治療を受けるための「インフォームドコンセント」を徹底し、誠意を持って説明に取り組んでいる。 平成18年11月1日から、「セカンドオピニオン外来」を開設しており、がんまたはその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。 「臨床指標の公表」については、ホームページにおいて、「核となる医療機能」を掲げ、重点的に取り組むとともに、「医療の質の指標（クリニカルインディケーター）」や「看護指標」の実績を公開し、医療の質の向上に努めている。
三好病院	患者さんとの信頼関係を構築し、患者さんの医療参加への主体性を促すため、「患者の権利章典」の周知徹底を図るとともに、患者さんの治療に関わるあらゆる情報を確実に伝え、同意を得る「インフォームドコンセント」の手續について、各委員会等あらゆる機会を通じて院内統一を図っている。 また、地域医療センターを窓口とする「セカンドオピニオン外来」を開設し、がんまたはその疑いのある患者さん等からの相談を受ける体制を整備した。 「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や当院を受診する患者に当院の病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上につながるよう努めている。
海部病院	患者さんが納得して治療を受けるための「インフォームドコンセント（説明と同意）」を徹底し、誠意を持って説明に取り組むとともに、患者さんの不安解消や治療に関する自己決定を支援する「セカンドオピニオン相談」については、地域支援室が窓口となり、患者さんの相談に応じるとともに他院への紹介等において、引き続き推進する。 「臨床指標の公表」については、科別手術件数、科別入院・外来患者数、救急患者数、科別入院平均在院日数、病類別病床利用率、地域別退院患者数、退院死亡率などの指標をホームページで公開している。

平成26年度経営計画実績

思いやりのある医療 の提供（3）	住民に開かれた病院運営	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

「開かれた病院」として、地域の住民が病院運営に参加いただける機会を設け、各病院の現状を明らかにするとともに、地域医療を共に考え、共に支えていただけるような関係づくりに努めます。

また、各病院の機能や特性に応じた疾病・療養に関する公開講座の開催や病院でのボランティア等、地域住民との協働を進めてまいります。

本局・各病院	平成26年度の実績 (住民に開かれた病院運営)
中央病院	平成27年1月に「県立病院を良くする会」を中央病院講堂で開催した。 平成26年5月と平成27年3月に、徳島ガン対策センター公開講座「あなたの家にかえろう」を開催した。 平成26年10月にオープンホスピタル（病院見学）を開催し、高校生が参加した。 平成26年11月に糖尿病と肝臓がんに関する県民公開講座を開催した。 平成27年2月に、多数傷病者受入訓練を実施し、地元住民や看護学生が参加した。 また、病院ボランティアが、外来患者に対するホールでの案内や車椅子利用者の介助、生け花の飾り付けや植木の手入れ、病院図書室における図書の貸し出し等を行っている。
三好病院	平成26年度においては、地域住民の代表である「三好病院を応援する会」との意見交換会を2回開催し、三好病院の現状を理解していただくとともに、病院に対する率直な意見をいただいた。（平成26年6月26日、平成27年3月4日） 平成26年10月4日には、緩和ケアをテーマに市民公開講座を開催し、約150名の参加者を得た。 また、地元自治会を対象にした、災害に関する訓練、勉強会を開催し、地域住民との交流に努めた。 （平成26年11月22日 約30名、平成27年3月14日 約40名） さらに、新入院棟に緩和ケア病棟が開設されたことに伴い、病院ボランティアの受入を積極的に行った。 （平成27年3月末現在 個人13名、団体2登録済み）
海部病院	毎月開催している海部病院経営戦略会議に、地域住民によって設立された団体の代表者に参加していただき、意見交換を行い、地域医療を共に考え共に支えていく関係づくりを行った。また、美波町、海陽町の「パパ・ママ教室」への助産師の派遣や海部高校への出前講座を行うとともに、当院の糖尿病認定看護師による糖尿病教室を、院内で10回、院外でも1回実施した。 平成26年4月に開催したボランティア打合せ会において、ボランティアとの意見交換及びボランティア保険加入等について説明し、参加しやすい環境づくりに努めた。ボランティアの実績については、病院敷地内の草抜きや剪定などを中心に、延べ148名の参加をいただき、年14回実施した。

平成26年度経営計画実績

思いやりのある医療 の提供（4）	広報活動の充実	(A)	達成又は順調	実績の評価 Ⓑ
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		○	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

病院局や各病院のホームページを充実し、県民や患者さんには各病院の診療概要や特徴、最近の取組などをできる限りわかりやすく、親しみやすい情報の提供に努めます。

また、医療関係者に選ばれる病院を目指し、地域医療への取組状況に関する情報等を積極的に発信するとともに、各病院広報誌や各自治体広報誌を通じた広報活動も積極的に実施します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (広報活動の充実)
病院局	ホームページの充実として、病院の概要やイベント情報などの新着情報について積極的な情報提供に努めた。 また、看護師及び助産師並びに臨床研修医の募集に関するパンフレットを作成した。
中央病院	病院のホームページに、地域医療連携や臨床研修医、イベント等について掲載しており、親しみやすい情報の提供に努めた。 また、地域連携のマンスリーFAXや病院広報誌ナニージャ等により、情報提供を積極的に実施している。
三好病院	平成26年度においては、ホームページをリニューアルし、従来提供していた各種の情報に加え、新たに開設した緩和ケア病棟の案内や医療従事者向けの研修会や一般市民向けの各種イベントの開催案内、実施報告などタイムリーな記事を掲載することで、一般県民に新病院の周知や広報等を行った。 また、新高層棟の完成に際し、「三好病院新高層棟のご案内」のパンフレットを作成し、関係機関や来院者に配布した。
海部病院	ホームページでは、特に医師確保に向けて、総合診療医を目指す後期研修医の育成プログラムである「南阿波総合医・家庭医プログラム」を重点的に紹介するなど内容の充実を図っており、診療案内や各種指標等を掲載し、患者サービスの向上に努めるとともに、海部病院のイベント等についても、常時発信し、患者や医療関係者などに積極的に情報提供を行っている。 また、年2回広報誌を発行し、海部郡内の住民に新聞折込等により配布し、診療内容等の情報提供を行った。

平成26年度経営計画実績

思いやりのある医療 の提供（5）	快適な病院環境整備の推進	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

病院利用者のより一層の利便性向上を図るため、新病院の整備に併せて、病院利用環境の整備に取り組みます。

総合メディカルゾーン本部内の主要道路となるメディカルストリートを整備し、徳島大学病院との駐車場の共同利用及び路線バスの構内乗り入れに取り組むとともに、中央病院においては、外来駐車場の拡充整備を行います。

また、三好病院では、病院への進入路を拡幅整備するとともに、路線バスの構内乗り入れを行います。

海部病院では、高台への移転に併せて、路線バスの構内乗り入れを行うとともに、外来駐車場の必要台数確保のため、立体駐車場を整備します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (快適な病院環境整備の推進)
中央病院	MZ 構想外構設計業務（中央病院）に着手した。今後は、外構工事に着手し、早期完成に努めて参りたい。 また、駐車場の共同利用及び路線バスの構内乗り入れについては、徳島大学病院等、関係機関と協議を実施した。
三好病院	三好病院においては、高層棟が完成し、高層棟解体工事及び低層棟改修工事に着手した。今後は、駐車場整備工事に着手し、早期完成に努めて参りたい。 さらに、県道161号線から三好病院構内への進入路を市道として三好市が拡幅工事を実施し、平成26年10月から、三好市営、東みよし町営、四国交通の路線バスが、構内乗り入れを開始した。 また、構内に三好病院前バス停（三者共用）を整備するとともに、正面玄関前まで点字ブロックによる誘導並びに正面玄関前駐車場管理ブースに視覚障がい者用の連絡ボタンを設置し、来院者の利便性の向上に努めた。
海部病院	高台への移転改築工事については、平成26年度末に建築工事の契約を締結し、「平成28年度の完成」を目指して工事を進めている。 移転先は、現病院から西へ約500m離れた高台の造成地（海拔約15.6m）で、新病院は、鉄筋コンクリート造6階建ての免震構造、屋上には、ヘリポートや太陽光発電設備を整備する予定である。

平成26年度経営計画実績

安全・安心な医療の提供（1）	災害医療提供体制の強化	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難等）	

経営計画内容

災害拠点病院として、災害発生時に迅速かつ円滑な医療及び被災地支援を実施し、関係機関と連携を図りつつ、地域の防災拠点の役割を果たします。このため、DMATの育成・強化を行うとともに、三好病院では高層棟の改築整備、海部病院では高台移転を進めます。

また、災害用医療資機材や災害用食料品等の整備とともに、被災者の受入れ体制の強化を図ります。

本局・各病院	平成26年度の実績 (災害医療提供体制の強化)
病院局	三好病院では、平成26年8月に、免震構造を採用し、屋上ヘリポートを備えた新高層棟が開院した。 また、海部病院では、平成27年3月に病院用地の造成が完了し、本格的な新病院の建築工事に着手した。 今後も、災害拠点病院、特に中央病院は基幹災害拠点病院として、DMATの育成・強化を行えるよう、養成研修を積極的に受講できるよう推進していく。
中央病院 【目標】 DMAT（災害派遣医療チーム）数 5チーム（平成30年度）	DMATの育成・強化としては、平成26年度に、看護師1名をDMAT隊員として養成した。チーム数は4チームで、今後もDMAT隊員の養成に力を入れていきたい。 災害用医療資機材の整備としては、災害時に壁面の医療ガスアウトレットに差し込んで使用する酸素流量計や吸引器等を購入した。 災害用食料品については、非常用ビスケットバー、アルファ米、非常用飲料水等を共同購入し、備蓄を増やした。 【DMAT数】4チーム（平成26年度）
三好病院 【目標】 DMAT（災害派遣医療チーム）数 3チーム（平成30年度）	高層棟の改築に伴い、自衛隊機（10t）が着陸可能なヘリポートを整備し、災害時を想定して自衛隊ヘリ、消防防災ヘリ、ドクターヘリの離着陸訓練を実施した。 また、高層棟1階廊下、5階講義室、6階リハビリ室の壁面に医療ガスアウトレットを整備し、多数傷病者の受け入れ体制を強化した。 災害用備蓄食糧について、職員、入院患者3日分の備蓄が完了し、平成27年度以降も定期的に入れ替えを行う予定である。 DMATについては、2チームを整備済みであり、各種訓練、研修に積極的に参加し、技能の維持に努めている。 【DMAT】2チーム（平成26年度）

本局・各病院	平成26年度の実績 (災害医療提供体制の強化)
海部病院 【目標】 D M A T (災害派遣 医療チーム) 数 2チーム(平成30年度)	高台への移転改築工事については、平成26年度末に建築工事の契約を締結し、「平成28年度の完成」を目指して工事を進めている。 また、災害対策訓練においては、D M A T 技能維持研修に医師1名、看護師2名、事務1名を派遣するとともに、南部圏域防災訓練にD M A T 1チーム、看護師等職員8名が参加した。 更に、院内においては、地震・津波時の臨時災害対策本部 立ち上げ訓練を行うとともに、3月には災害用備蓄食糧、保存水の更新を行った。 県南地域の災害拠点病院として、病院の機能を最大限に活用し、被災者に十分な医療が提供できるよう、災害ワーキンググループにおいて地震アクションカードの検討を行っている。 【D M A T】1チーム(平成26年度)

平成26年度経営計画実績

安全・安心な医療の提供（2）	危機管理への対応力の強化	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

南海トラフ巨大地震等に備え、災害拠点病院としての機能が十分果たせるよう、災害発生時の患者の受入れ体制を強化します。

このため、県立3病院が徳島県鳴門病院と連携を図りながら、定期的な大規模災害や局地災害を想定したトリアージ訓練等の実践的な災害訓練や研修を実施するとともに、災害用備品等を整備し、災害時における対応能力の向上に努めます。

また、新病院の施設・機能に応じた災害対策マニュアルや事業継続計画（BCP）を整備するとともに、新型インフルエンザへの適切な対応等、危機管理体制の構築を図ります。

本局・各病院	平成26年度の実績 (危機管理への対応力の強化)
病院局	南海トラフ巨大地震等に備えた病院相互の連携や協力体制の構築を目的として、県立3病院、徳島県鳴門病院、及び徳島赤十字病院の実務担当者等による「災害医療連携検討ワーキンググループ」を設置し、病院間の連携による災害訓練や研修会の実施及び災害時備蓄品等の整備計画や共同調達等について情報共有と具体策の検討を行った。 各病院において定期的に巨大地震等を想定した傷病者受け入れ訓練やトリアージ研修を実施し、災害発生時に備えた救急救護体制の強化を図るとともに、その一部においては「災害医療連携検討ワーキンググループ」の取り組みとして訓練に相互参加する等、病院間での情報共有と連携強化に努めた。 病院毎に必要な災害用備品等のうち、災害用備蓄食料について、県立3病院と鳴門病院で共同購入を実施した。 マニュアルについては、各病院において、被害想定の結果や新高層棟の供用開始（三好）といった状況変化に応じたマニュアルの改訂作業を進めている。 引き続き、ワーキンググループの取り組みは継続し、各病院で実施する訓練に積極的に参加することで災害時に対応できるよう病院間の連携を深めていく。
中央病院	南海トラフ地震などの大規模災害に備えるため、年間を通じて各種訓練を実施したほか、講演・展示等を行い、災害に対する意識向上を図った。 ・ 災対本部立ち上げ訓練 ・ 災害時初動図上訓練 ・ 石巻赤十字病院における東日本大震災対応の記録映像上映（1週間実施） ・ 災害パネル展（3週間） ・ 災害講演会（講師：石井正東北大学教授） ・ トランシーバー通信訓練（2回） ・ トリアージ（START法）講習会（5回） ・ トリアージタッグ使用法講習会（4回） ・ 災害時情報共有システム入力訓練（4回） ・ 多数傷病者受入訓練（2回） ・ 災害対策マニュアル改訂

本局・各病院	平成26年度の実績 (危機管理への対応力の強化)
三好病院	救急勉強会、BLS・AED講習などの救急・災害に関する研修を定期的に行い、職員の救急・災害に対する技能の維持に努めた。 新高層棟の完成に伴い1階廊下スペースが多数傷病者（中等症）の診療場所となることから、受け入れ体制を確認するための訓練を行った。また、県立中央病院の災害訓練に参加し、課題について当院の災害対策の参考とした。 また、市・社協・近隣住民と連携した防災訓練・研修会を開催した。 今後は、これまで行ってきた訓練・研修を継続すると共に、災害時の情報収集・発信に関する訓練・研修の強化を行いたい。
海部病院	DMA T技能維持研修に医師1名、看護師2名、事務1名を派遣するとともに、南部圏域防災訓練にDMA T 1チーム、看護師等職員8名が参加した。 また、院内においては、地震・津波時の臨時災害対策本部立ち上げ訓練を行うとともに、3月には災害用備蓄食糧、保存水の更新を行った。 県南地域の災害拠点病院として、病院の機能を最大限に活用し、被災者に十分な医療が提供できるよう、災害ワーキンググループにおいて地震アクションカードの検討を行うとともに、災害対策マニュアルの見直しや事業継続計画（BCP）の整備を図りたい。

平成26年度経営計画実績

安全・安心な医療の提供（3）	医療安全対策の推進	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

医療安全管理者を中心に、医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、ヒヤリハット事例の予防対策の充実を図るなど、組織的・系統的に取り組み、実効性のある医療安全対策の推進に取り組んでいきます。

また、医療安全管理者養成研修会等の受講機会を確保すると共に、苦情・クレーム対応を含めた医療安全研修を全体・職種別に実施し、危機管理意識の向上と県立病院における医療安全文化の醸成に努めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (医療安全対策の推進)
病院局	各県立病院の医療安全対策に関する取組や、ヒヤリハット事例の分析、再発予防などの意見交換を行い、医療安全対策の充実を図るため、医療安全担当者会を開催した。(平成26年9月16日) 県立病院で発生した徳島県立病院医療事故公表基準に規定する個別公表医療事故及び包括的公表医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行い、組織的な医療事故防止に資するため、徳島県立病院医療安全対策委員会を開催した。(平成27年2月12日開催)
中央病院	平成26年度は、「安全への高い意識を持ち、安全文化を醸成する。チームワークで、安心・安全な医療・看護を提供する。」を目標に医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、勉強会・研修会を開催し、積極的な参加や安全への意識の向上に取り組んだ。 医療安全管理者養成研修には複数の職員を参加させ、安全文化を根付かせるリーダーとなる職員の育成に力を入れた。 また、医療事故想定訓練では、多職種が関わる場面を想定し、具体的な事例を示しながら予防対策について全職員を対象に周知徹底に努めた。暴言暴力対策としては、外部講師を招いて研修会を開催し、不当要求時の安全で具体的な対応について学び個々のスキルアップを図った。
三好病院	医療安全文化を全院的に広め、事故の未然防止の徹底を図るため、勉強会・研修会を開催し、危険予知と再発防止への意識向上を図った。特に、平成26年度の研修においては、放射線技師や理学療法士、検査技師など、医療技術職からの講師を充実させ、具体的な安全対策に取り組んだ。 医療安全管理者フォローアップ研修に職員を参加させ、医療安全の新しい知識の習得を図り、今後の活動の糧とした。 また、近年増加しているクレーム等への対応について、研修会を開催し、スキルアップを図り、初期対応等の周知に努めた。想定訓練においても、インフォームドコンセントの重要性にポイントをおいた事例に対して訓練を実施し、苦情・クレーム発生時の対応について具体的な学びの場とした。
海部病院	院内「医療安全推進委員会」において、毎月、院内各部署のラウンドを行い、安全管理等が適切に実施されているかを確認し、問題点等の洗い出しを行うとともに、毎月開催している「医療安全対策委員会」や「ヒヤリハット報告会」に併せてラウンド報告を行い、全職員が共通認識・情報の共有を図ることにより、重大な事故発生の防止に努めた。 また、全職員を対象にした「院内医療安全研修会」を年3回実施した。

平成26年度経営計画実績

安全・安心な医療の提供（4）	院内感染対策の推進	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

良質・適切な医療提供の基盤となる院内感染対策について、院内感染対策チーム（ICT）を中心とした院内研修会や院内ラウンドの実施により、職員の感染対策に関する意識・知識の向上を図り、予防と発生時の速やかな対応に努めます。

また、地域の医療機関や行政機関と連携し、地域の感染対策の向上に寄与します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (院内感染対策の推進)
中央病院	感染制御チームによる、抗菌薬適正使用状況の検討、マニュアルの遵守状況ラウンドを週1回実施し、必要により改善のための介入を行った。感染予防に関する研修会を開催し、研修会不参加者に対して、ウェブ研修と確認テストを実施した。薬剤耐性菌の発生状況を監視しており、平成25年の平均感染率（0.5）を下回る結果（0.45）であった。インフルエンザによる職員間の集団感染が2件認められたが、就業制限および濃厚接触者への抗インフルエンザ薬の予防投与を速やかに行い、患者への感染を予防することができた。 職員（委託職員を含む）の健康管理として、ワクチン接種の年間計画を作成し、抗体検査、ワクチン接種（HBワクチン・麻疹・水痘・流行性耳下腺炎・風疹・インフルエンザ）を実施した。 感染防止対策加算1を算定する徳島大学病院と徳島県鳴門病院で感染対策について相互に病院を訪問し、監査を行った。また、感染防止対策加算2を算定する医療機関（15施設）と感染対策に関する合同カンファレンスを4回開催し、地域の感染対策の向上に寄与した。
三好病院	ICTは、事務局（医師、看護師、検査技師、薬剤師）やリンクナースを中心に、ラウンドやミーティングを実施し抗菌薬適正使用の推進や感染対策の改善に努めた。 研修会は22回開催し、職員延べ612名、院外97名の参加があった。平成26年度から、手指衛生の啓発のために毎月10日を「手指衛生の日」として全職員を対象に手洗いチェックを実施した。多剤耐性緑膿菌の院内発生やインフルエンザ、ノロウイルスの集団発生もなかった。 感染防止対策加算1の東徳島医療センターと相互評価、加算2の医療機関（5施設）とカンファレンスを4回実施したほか、地域の感染対策研修会の講演活動を通して地域の感染対策の向上に寄与した。
海部病院	ICTは、感染管理認定看護師を中心に毎月委員会を開催し院内ラウンドやマニュアルの追加・見直しを行い、院内感染防止対策に努めた。 また、感染防止対策加算1の医療機関とは相互評価を実施、加算2の医療機関とは、年4回のカンファレンスを実施するなど、地域全体での感染対策のボトムアップを図っている。 平成26年度には、海陽町国民健康保険海南病院より、当院との連携依頼があり、年4回のカンファレンスを実施した。

平成26年度経営計画実績

医療人材の 育成・確保（１）	医師の確保と育成	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

総合メディカルゾーン本部を核とし、県立病院間での医師のローテーション勤務を一層推進し、効果的な人材活用と育成を図ります。また、地域枠医師等を積極的に受け入れ、県立病院間での人的交流の拡大や若手医師のキャリアアップに努めます。

徳島大学病院や県医師会等との連携・協力により、新たな専門医制度への対応を図り、高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成するなど、優れた医師の育成・医療の質の向上を推進するとともに、次の世代の研修医を育てる医師育成サイクルを構築します。

県立病院の医師を、大学や教育研究機関、高度先進医療機関、国際学会等に派遣し、特に高度な専門的知識及び技能を修得させ、その職員の資質向上を図るとともに、組織における知識技能の共有に努めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (医師の確保と育成)
病院局 【目標】 高度医療研修医師派遣者数病院事業全体10名（平成30年度）	平成26年度には、中央病院と三好病院間の異動を拡大し、三好病院の医師数が微増した。（三好病院常勤医数H25：25名→H26：26名）引き続き、医師のローテーション勤務を推進し、医師確保の取組みを行っていく。 また、医師を平成26年度だけで4名、米国の学会や国内の先進医療機関に派遣し、特に高度な専門的知識や技能を修得させた。 【高度医療研修医師派遣者数】 4名（平成26年度）
中央病院	基幹型研修病院として、初期研修医22名を育成するとともに、徳島大学病院の協力型研修病院として9名の研修医を受け入れた。 ・臨床研修の質の向上のため、指導医養成講習会に参加し、新たに4名が臨床研修指導医資格を取得した。 ・基幹型研修病院として、臨床研修病院の基本理念・基本指針に基づき、協力医療機関の協力を得ながら人材育成に取り組んだ。 ・高度医療研修には2名の医師が参加した。 【高度医療研修医師派遣者数】 2名（平成26年度）

本局・各病院	平成26年度の実績 (医師の確保と育成)
三好病院	平成26年度は、総合内科専門医、消化器内視鏡専門医にそれぞれ1名の医師が認定されるなど、高度な知識や技術・経験を持つ専門医を養成し、優れた医師の育成・医療の質の向上を推進した。 また、協力型研修病院として、12名を受け入れた。更なる臨床研修の質の向上のため、臨床研修指導医資格を新たに2名取得した。県立中央病院と協力し、研修医の育成サイクルを構築し、三好地域に特化した地域研修が提供できるよう、病院全体で取り組んだ。高度医療研修には2名の医師を派遣した。 1名はDDW2014（米国消化器病週間）の国際学会において口頭発表を行い、また1名は緩和ケア病棟開設にあたって、病棟運営と最新の緩和ケア医療を学ぶため、先進施設での研修を行った。 緩和ケア医療を学んだ医師は、取得した専門的な知識や技能を、患者の診療やスタッフの育成に活用し、スムーズな病棟運営を行っている。また、地域住民にも広く緩和ケアを啓発している。 【高度医療研修医師派遣者数】2名（平成26年度）
海部病院	当院においては、地理的条件等から医師の確保が困難な状況にあり、常勤医師不足が深刻化するなか、各方面に働きかけ、徳島大学病院等から医師の派遣や県立中央病院から応援診療を受けながら、診療体制の維持に努めている。 平成23年11月には当病院に徳島大学の寄附講座「地域脳神経外科診療部」が開設され、脳神経外科外来診療が週1日から連日診療となっている。 また、新総合医療情報システムの導入に際し、県立中央病院と同一のカルテとし、作業環境の統一を図るなど中央病院の医師による応援診療がスムーズにできる環境づくりを行った。 さらに、電子カルテに不慣れな応援医師の補助として、医師事務作業補助者を3名配置し、医師の負担軽減に努めた。 「地域医療を守る会」や海部病院ボランティア「さくらの会」との連携により医師の離職防止にも努めた。 今後も、医師の安定確保に向けた条件整備に努めていきたい。

平成26年度経営計画実績

医療人材の 育成・確保（2）	地域医療研修の充実	①	達成又は順調	実績の評価 Ⓐ
		②	ほぼ順調	
		③	努力を要する	
		④	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容 中央病院では、総合メディカルゾーン本部としての位置づけを踏まえ、志と臨床力の高い医師を輩出する実践教育病院として、三好病院においては、「にし阿波3病院後期臨床研修プログラム」、海部病院においては、「南阿波総合医・家庭医プログラム」により、各地域を支える医療拠点として、関係医療機関と連携した特色ある研修指導を行います。 また、徳島県鳴門病院と連携し、研修医の受入・養成環境を充実します。 また、海部病院の高台移転に併せて、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」を整備します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (地域医療研修の充実)	
病院局 【目標】 - 臨床研修指導医数 【中央病院】90名 【三好病院】20名 【海部病院】10名 (平成30年度) - 初期・後期臨床研修医数 【中央病院】45名 【三好病院】5名 【海部病院】5名 (平成30年度)	臨床研修指導医については、医師免許取得後7年目以降の医師に「臨床指導医養成講習会」の受講を促し、資格取得者が増加した。 (平成25年度末：82名→平成26年度末：96名) また、初期・後期臨床研修医についても増加している。(平成25年度：31名→平成26年度：39名)	【臨床研修指導医数】 (平成26年度) - 中央病院 77名 - 三好病院 17名 - 海部病院 2名 - 合計 96名 【初期・後期臨床研修医数】 (平成26年度) - 中央病院 39名

本局・各病院	平成26年度の実績 (地域医療研修の充実)
中央病院 【目標】 ・臨床研修指導医数 90名 (平成30年度) ・初期・後期臨床研修医数 45名 (平成30年度)	中央病院では、「基幹型研修病院」として海部病院、三好病院、那賀町立上那賀病院と連携し、研修医が地域医療の現場で実際に勤務を行うことにより、臨床研修病院としての地域医療の先導的な役割を果たした。 【臨床研修指導医数】 77名 (平成26年度) 【初期・後期臨床研修医数】 39名 (平成26年度)
三好病院 【目標】 ・臨床研修指導医数 20名 (平成30年度) ・初期・後期臨床研修医数 5名 (平成30年度)	三好病院においては、「三好市国民健康保険市立三野病院」「つるぎ町立半田病院」と、平成20年に「徳島県西部医療圏における適正な医療を確保するための協定書」を締結し、限られた医療資源を有効活用し、診療の相互支援を行っているところであるが、この取り組みの一環として3病院が共同して研修指導を行う、「にし阿波3病院連携医師研修（後期研修・生涯教育）プログラム」を平成25年度に策定した。 【臨床研修指導医数】 17名 (平成26年度) ※ 初期・後期臨床研修医受入数 12名 (平成26年度)
海部病院 【目標】 ・臨床研修指導医数 10名 (平成30年度) ・初期・後期臨床研修医数 5名 (平成30年度)	院内に設置された徳島大学「地域医療研究センター」を核に、当院を、徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部5年生全員が当院で一週間の実習を受けることとしている。平成26年度においては、ほぼ毎月、計約100人の医学生を受け入れ、医学生の資質向上に資するとともに、学生に対して、海部病院や地域医療についての認識を深めてもらい、卒業後、臨床研修で当院を選んでいただく動機付けの一助としている。 徳島大学及び県立中央病院の協力型臨床研修病院として、臨床研修医を積極的に受け入れ、平成26年度は、計19人の研修医を受け入れ、海部病院の存在をアピールすることにより将来的な医師確保につなげている。 また、後期臨床研修においては、平成26年度から、「南阿波総合医・家庭医養成プログラム」において、県外の医大出身者1名の後期臨床研修医を受け入れるなど、徐々にその成果が現れてきているところである。 今後とも、臨床研修医や実習生を積極的に受入れるとともに、引き続き病院局や県医療政策課、徳島大学等と連携を図りながら、医師確保に向けた努力を続けていきたい。 【臨床研修指導医数】 2名 (平成26年度) ※ 初期・後期臨床研修医受入数 19名 (平成26年度)

平成26年度経営計画実績

医療人材の 育成・確保（3）	スペシャリストの養成	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

高度化・専門化する医療に対応し、県民の安全・安心を支える県立病院として担うべき医療機能を発揮していくため、各県立病院がそれぞれの担うべき機能に応じた研修の方針・計画を策定し、職員の資質向上を図り、看護師や薬剤師などの各職種での資格取得等、知識・技能の習得及びその共有に努めます。

また、救命率の向上や後遺症の軽減、へき地における救急医療体制の強化を図るドクターヘリに搭乗し、救命活動を行うフライトナースの育成に努めます。

全国的な看護師不足の状況のなか、県内における看護養成学校からの実習生の受入れを通じ、県内全体の看護職確保や質の向上に関し、県立病院として役割の一端を担っていきます。その受入れ体制の強化として、さらに細やかな対応が出来るよう看護学生実習指導者等の育成に努めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (スペシャリストの養成)								
病院局 【目標】 ・専門・認定看護師数 病院事業全体30名 (平成30年度)	認定看護師の養成を戦略的に行うために策定された「養成基本方針」を改定し、看護の分野を絞って重点的に養成していくこととした。 平成26年度には、病院全体で3名の看護師を、認定看護師の資格取得のために必要な教育課程に派遣した。 【専門・認定看護師数】 <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>中央病院</td><td>8名</td></tr> <tr><td>三好病院</td><td>7名</td></tr> <tr><td>海部病院</td><td>2名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>17名（平成26年度）</td></tr> </table>	中央病院	8名	三好病院	7名	海部病院	2名	合計	17名（平成26年度）
中央病院	8名								
三好病院	7名								
海部病院	2名								
合計	17名（平成26年度）								
中央病院 【目標】 ・看護学生実習指導者数（看護協会実習指導者講習会修了者数） 30名（平成30年度）	平成26年度、医学教育センターが核となり、医療の質の向上のために計画的に全職種を対象とする研修会を企画、運営した。また、各局でも計画的に研修会を開催し、各分野の質の向上を図るとともに、各種学会、研修会に派遣し、職員の資質向上に取り組んだ。加えて、積極的に研究にも取り組み、誌上発表62題、学会発表220題と多くの成果を上げている。 学会、研修会は延べ3,788名の医療職員が参加し、病院や各局で報告会を開催し、知識・技術の共有を図り、医療現場の質の向上に努めた。 また、講演会やセミナー、病院や施設で延べ69回の講演を行うなど地域貢献している。 多数の医師や看護師（約1,000名）薬剤師、理学療法士等の実習生も積極的に受け入れ、後身の育成にも貢献している。 フライトナースについては、看護師1名がドクターヘリ従事者研修に参加した。 また、指導者の育成を図るため、看護協会実習指導者講習会を受講し、2名が終了した。 【専門・認定看護師数】 8名（平成26年度） 【看護学生実習指導者数】 24名（平成26年度）								

本局・各病院	平成26年度の実績 (スペシャリストの養成)
三好病院	平成26年度は、「医療の質の向上のため、体系的・効率的な教育研修を実施する。研修医受入の推進のため、研修医教育体制の整備に積極的に取り組む。」を教育方針として、職員の資質向上に取り組んだ。 院外研修や学会には、延425名の医療関係職員が参加した。 認定看護師教育においては、脳卒中リハビリテーション看護1名、がん性疼痛看護1名が資格を取得し、三好病院の認定看護師は7名となった。また、摂食・嚥下認定看護師教育課程を1名が修了した。 研修受講後は、勉強会や研修伝達報告会を開催し、職員全体での知識の共有を図っている。 フライトナースの育成については、看護師1名がドクターヘリ従事者研修に参加するとともに、フライトナースの条件の1つでもある、BLSインストラクターコースも1名が受講し認定された。 当院では、毎年、三好市医師会附属看護学院からの実習を受け入れている。その受け入れ体制の強化及び看護師の質向上に寄与するため、看護協会実習指導者講習会を受講し、指導者の育成を図っている。平成26年度は2名が修了した。 【専門・認定看護師数】7名（平成26年度）
海部病院	キャリアラダーによる研修制度に応じてステップアップできるように研修会の企画や実施及び衛星放送による研修会を行った。なかでも、認定看護師（感染、緩和ケア、救急看護）による研修で、専門的知識を深めることができた。 今後は、新人研修の充実や多くの看護スタッフが参加できるような研修会の開催方法の検討や評価方法の確立等を行い、質の高い看護ができるよう努力していきたい。また、効果的な研修体制によるキャリアアップにより、看護職のモチベーションの向上や離職防止にも努めていきたい。 平成22年度に感染管理認定看護師1名・平成24年度には、糖尿病認定看護師1名が資格を取得し、認定看護師は2名となった。また、平成26年度は、セカンドレベル研修1名、看護管理者研修1名、栄養サポートチーム専門療法士研修1名の派遣を行った。 その他、各職種の専門性を高める資格取得や研修受講を積極的に推進している。 【専門・認定看護師数】2名（平成26年度）

平成26年度経営計画実績

医療人材の 育成・確保（４）	医師、看護師等の勤務環境の 改善・充実	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担軽減を図るため、事務補助者（医師事務作業補助者等）の効果的な配置を進めます。

また、中央病院に院内保育所を新築して、職員が出産や育児といった多様なライフステージに対応して業務を続けていくことができる職場環境の醸成を図り、同院に勤める医師や看護師等の福利厚生の実施に努めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (医師、看護師等の勤務環境の改善・充実)
病院局 【目標】 医師事務作業補助者数 病院事業全体50名 (平成30年度)	医師等の負担軽減を図るため、平成26年度に医師事務作業補助員の増員を図り、積極的活用を行った。 また、平成26年5月には、中央病院に院内保育所を新築オープンし、同院に勤める医師や看護師等の職員の福利厚生の実施を図った。 【医師事務作業補助者数】 40名（平成26年度末）
中央病院	平成26年度末では、医師事務作業補助者を29名まで増員し、更なる医師の業務負担の軽減を図った。 院内保育所を26年5月に新築オープンさせ、定員も旧保育所より増員し80名とした（内徳大分10名）。半日保育や臨時保育も設定し、医師や看護師が働く上でより柔軟で預けやすい環境にした。 【医師事務作業補助者数】 29名（平成26年度末）
三好病院	医師の事務負担軽減を図るため、平成22年度から医師事務作業補助員を配置し（6名）、平成26年度は8名体制とした。医師事務作業補助者の業務を拡大することにより、医師の負担軽減の効果が大きくなり、医療業務に集中できると高い評価を得ている。 また、経費面での費用対効果もプラスの実績を上げている。 医師の離職防止については、住民が自らの地域医療を守ることを目指して組織された「三好病院を応援する会」による、医師公舎の清掃作業等の活動との連携を通じて、医師の離職防止を図っている。 【医師事務作業補助者数】 8名（平成26年度末）

本局・各病院	平成26年度の実績 (医師、看護師等の勤務環境の改善・充実)
海部病院	医師等の業務の負担軽減を図るため、医師事務作業補助者を平成26年度末で3名配置し、医師の負担軽減に努めた。 育児休業中の職員に、短時間勤務制度の説明文書を郵送し周知を図った。 また、病院と疎遠にならないように、定期的な電話や手紙で近況確認や病院の状況などを伝えた。 育休から職場復帰後は、育児と仕事が両立できるように、超過勤務をしないような勤務上の配慮や夜勤の免除、特別休暇（子の看護）等を取 得しやすい職場環境作りに努めた。 今後も、仕事と育児を両立できるよう支援を継続していきたい。 【医師事務作業補助者数】 3名 （平成26年度末）

平成26年度経営計画実績

収入確保の強化（１）	急性期医療の重点化	①	達成又は順調	実績の評価 A
		②	ほぼ順調	
		③	努力を要する	
		④	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平均在院日数の適正管理に努め病床利用率の向上に取り組むとともに、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の増加を目指します。

中央病院では、本県医療の中核拠点として高度急性期医療機能の発揮を目指すとともに、三好病院では四国中央部の拠点として急性期医療機能の発揮を図るべく、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の増加に取り組み、収益の増加を図ります。

本局・各病院	平成26年度の実績 (急性期医療の重点化)
中央病院 【目標】 - 平均在院日数（精神病床除く） 9.5日（平成30年度） 1日平均新規入院患者数 （精神病床除く） 35名（平成30年度）	急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の増加を図った。 平成26年度は、手術支援ロボット（ダヴィンチ Si）を導入し、泌尿器科で23件の手術を行い、拠点病院としての高度急性期医療機能の強化を図った。 【平均在院日数】 9.7日（平成26年度） 【1日平均新規患者数】 30.9名（平成26年度）
三好病院 【目標】 - 平均在院日数（精神病床除く） 14日（平成30年度） 1日平均新規入院患者数 （精神病床除く） 11.6名（平成30年度）	急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平均在院日数の適正管理に努めた。しかしながら、平成26年度は新病棟開院に伴う入院調整等があったため、新規入院患者数については減少する結果となった。 今後、当院は四国中央部の拠点として、急性期病院としての地域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の増加に取り組み、収益の増加を図っていく。 【平均在院日数】 16.1日（平成26年度） 【1日平均新規入院患者数】 8.4名（平成26年度）

平成26年度経営計画実績

収入確保の強化（2）	D P C 分析による経営戦略の強化	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

D P C データの分析を行うことができる体制を整備し、自院の診療実績データを活用して経営分析のための指標を作成し、厚生労働省が公表する他病院のデータとの比較を行い、D P C 委員会や戦略会議等で情報共有し、経営の効率化を図ります。

また、より一層の経営戦略強化を図るため、必要に応じた外部コンサルタントへの一部委託化を検討します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (D P C 分析による経営戦略の強化)
病院局	平成27年度の機能評価係数Ⅱについて分析し、本局経営戦略会議において情報共有を行った。社会や地域の実情に応じて求められている機能の実現及び全DPC対象病院が目指すべき望ましい医療の実現の観点から、3病院の機能評価係数Ⅱを7つの構成係数毎に偏差値換算し、前年度と比較した3病院の順位や今後各病院において検討が必要な係数について示した。
中央病院	平均在院日数の短縮や救急医療への貢献が認められた結果、平成26年度はD P C Ⅱ群病院に昇格し、D P C 機能評価係数Ⅱでは全国6位となった。これらの係数等を維持するため、D P C 分析システムを活用したデータを各種委員会で報告し、入院期間の短縮や後発医薬品の採用数増加、診療密度の向上などに取り組んだ。 さらに、医師がD P C 入院期間を把握し短縮するための支援システムとして、電子カルテにD P C オーダーを導入し、入院診療のさらなる効率化に取り組んだ。 また、D P C 分析において著明なコンサルタントが実施する「がん診療に関するC Q I」に参加し、がん診療に関するベンチマーク分析を行った。
三好病院	平成24年度から、D P C 対象病院として厚生労働省の実施する「D P C 導入の影響評価に係る調査」に参加。また、全国自治体病院協議会D P C データ分析事業にも参加している。 厚生労働省が発表するD P C データと地域の人口統計から、今後の当院が目指すべき医療を、分析し、戦略会議等で情報共有した。
海部病院	平成21年7月にD P C の対象病院となり、平成23年4月から毎月1回平成24年度からは制度が変わり3ヶ月に1回の割合でD P C 調査事務局に入院データの提出を行っている。 また、平成26年4月より、診療情報管理士を配置している。さらに、毎月診療情報管理委員会等を開催し、委託業者からの報告に基づいた査定の状況及び、内容を把握し、コーディング等を病院経営に役立てた。 今後は、外来データの提出も行い、D P C 係数の増加を図るとともに、更なるD P C における診療データ及び統計データの分析を行い、当院の入院診療の実績として公開に取り組みたい。

平成26年度経営計画実績

収入確保の強化（3）	診療報酬制度への戦略的な取組	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

適切な医業収益の確保のため、国の医療動向や各病院の医療機能の整備状況に即し、新たな施設基準の取得など診療報酬制度への迅速・的確な対応を図ります。

また、医師、診療情報管理士、事務、医事委託業者等との間でレセプト委員会を開催し、正確な伝票作成、迅速な伝達、電算入力の確認徹底を行い「請求漏れ」を防ぎ、チェック体制の充実、査定内容・傾向の分析対策などに加えて、査定結果の医師へのフィードバックを行います。

本局・各病院	平成26年度の実績 (診療報酬制度への戦略的な取組)
中央病院	平成26年度、次の施設基準を新たに取得した。これらの施設基準は病院収益に大きく貢献している。 - 診療録管理体制加算1 - 医師事務作業補助体制加算2（15：1） - がん患者指導管理料2、3 - ハイケアユニット入院医療管理料 - 腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 ほか - 内視鏡手術用支援機器加算（ダヴィンチS iにかかる施設基準） また、レセプト委員会（診療報酬請求検討部会）を毎月開催し、査定結果の医療スタッフへのフィードバックを行った。 さらに、特定入院料や救急医療管理加算について、未請求事例の洗い出しを行うなど、積極算定に取り組んだ。 これまで紙伝票で行われていた特定入院料や一部加算の算定指示について電子化を図り、請求漏れの防止に努めた。
三好病院	診療報酬改定に迅速に対応し、新たな施設基準等の取得に取り組んだ。また、医師、診療情報管理士、医事業務委託業者等で構成する診療報酬委員会などにより、請求漏れ・誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。 平成26年度取得 施設基準 - H26.4.1 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 - H26.9.1 医師事務作業補助体制加算2（25対1）、療養環境加算、CT撮影（16列以上64列未満、64列以上）及びMRI撮影（3テスラ以上）冠動脈CT加算、外傷全身CT加算、大腸CT撮影加算（マルチスライスCT64列以上）、心臓MRI撮影加算 - H26.11.1 輸血管理料Ⅱ - H27.1.1 緩和ケア病棟入院料

本局・各病院	平成26年度の実績 (診療報酬制度への戦略的な取組)
海部病院	計画期間における各病院が担うべき医療機能の整備動向に即した、診察報酬上の施設基準の取得を図るとともに、診療報酬改定への迅速な対応や、D P Cにおける最適な請求など、適切な診療収益の確保に努めた。 平成21年7月にD P Cを導入して以来、入院診療の費用に関しては一部の出来高請求を除いて、全てD P C請求することとなり、精度向上が図られ診療収益の確保に繋がっている。 また、施設基準については、新たにペースメーカー交換術を取得し、収益増加に努めた。 今後も、厚生労働省の動きに着目し、当院の現状に即した施設基準の取得に努めていきたい。 平成23年8月から稼働となった総合医療情報システムの特徴として、検査・処置・処方等、オーダーの実施が医事会計の伝票に反映されるようになり、請求漏れの防止がシステムにおいて担保されている。レセプトのオンライン請求は、引き続き実施しており、記載上の間違いについては、オンライン請求時に自動的に判別されるため、修正を直ちに行っている。内容に係るもの、過誤、請求漏れ等については、レセプト委員会を毎月開催し、診療報酬請求の精度向上に努めた。

平成 2 6 年度経営計画実績

収入確保の強化（４）	未収金の発生防止と回収促進	(A)	達成又は順調	実績の評価 (B)
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

患者さんの診療費用について、医療費に関する支払相談の充実等により、未収金の発生防止に努めます。未収金が発生した場合には、早期の納入指導を徹底するとともに、適宜、文書・電話・戸別訪問等による督促を実施し、回収不能債権の発生防止に努めます。

また、一定の要件を満たす場合には、支払督促等の法的措置により、未収金の回収に取り組みます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (未収金の発生防止と回収促進)
病院局	平成 2 6 年度における未収金の発生防止と回収促進については、徳島県未収金対策委員会において策定されている平成 2 5 年度～平成 2 8 年度の医療未収金（個人負担分）の削減目標「平成 2 4 年度末の未収金額を上回らないこと」を達成することができた。 ①発生防止 医業収益が増加傾向にある中、現年発生分の未収金は 3 病院合わせて、624万2,198円減少した。 平成25年度 1億2,580万4,400円 平成26年度 1億1,956万2,202円 減少額 624万2,198円 ②回収促進 目標未収金額 2億4,738万5,812円 平成26年度末未収金額 2億3,921万5,899円 削減額 816万8,913円 また平成 2 6 年度は、法的措置として裁判所に対し 3 件（申立金額2,977,920円）の支払督促の申立を行った。この結果平成 2 0 年 2 月以降の実績としては、1 0 9 件（申立金額32,268,331円）となり、平成 2 6 年度末時点では、8,368,147円を回収できた。
中央病院	会計窓口の 2 4 時間化やクレジットカード等による支払いを可能とすることにより、患者さんの利便性を高めるとともに、地域医療センターにおいて、医療ソーシャルワーカー等の職員が、患者さんのニーズに応じた納付相談や生活福祉資金貸付制度等の各種社会保障制度等を紹介することにより、未収金の発生防止に努めた。 未収金の回収については、「徳島県病院事業滞納未収金取扱要綱」に基づき、電話、文書による督促を行うとともに、職員による戸別訪問を実施し、未納者に対して分割納付や高額療養費制度等の活用について、丁寧に説明をすること等により早期収納に努めた。 また、支払督促等の法的措置により、未収金の回収に取り組んだ。

本局・各病院	平成26年度の実績 (未収金の発生防止と回収促進)
三好病院	医療費に関する支払相談の充実等により、未収金の発生防止に努めた。また、夜間休日の救急外来診療分に対する預かり金の徴収や、クレジットカード等の支払方法の利便性改善を図った。未収金が発生した場合には、早期の納入指導を徹底するとともに、文書・電話・戸別訪問等により督促を実施し、回収不能債権の発生防止に努めた。
海部病院	医療費の支払いに関する相談等を実施するとともに、会計は業者に委託しており、土・日・祝日についても8:30～17:15まで外来会計については休みなく実施している。 時間外の外来会計については、会計業務ができないため、県外の受診者の場合は、当直員が預かり金として1万円を預かり、清算後返納あるいは追加徴収を実施して未収金の発生防止に努めている。 入院会計については、退院までに料金確定を行い、退院時に支払ができるようにしているが、休日に退院する患者については料金確定ができないため、あらかじめ入院時に徴収した支払に関する誓約書で対応している。 未収金が発生した場合は、早期の督促状の発送や電話督促、次回外来受診時に督促、家庭訪問による納付交渉（平成26年度は、訪問20名、延べ31回実施）等により回収に努めた。長期滞納者については、法的措置による回収を進めた。

平成26年度経営計画実績

経費削減の強化（１）	後発医薬品の採用	(A)	達成又は順調	実績の評価 A
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

後発医薬品の採用について、患者さんの負担軽減とともに費用の削減に繋がるため、DPC分析の検証に基づき、計画的な採用拡大を図っていきます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (後発医薬品の採用)
病院局 各病院 【目標】 後発医薬品割合 60%（平成27年度）	各病院の薬事審議会を通じて、採用医薬品について随時後発医薬品への切り替えを進めた。 また、後発医薬品割合については、新たに病院局ホームページにおいて公表することとし、積極的な推進に努めた。 今後、厚生労働省においても目標値の引き上げ及び達成時期の前倒しが予想されるところであるが、それらにも迅速に対応できるよう引き続き後発医薬品の採用拡大を推進していく。 【後発医薬品割合（平成26年度）】・中央病院 68.4% ・三好病院 63.9% ・海部病院 82.2%

平成26年度経営計画実績

経費削減の強化（2）	医療器械等の共同購入の推進	(A)	達成又は順調	実績の評価 (B)
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難等）	

経営計画内容

各種医療器械、医薬品、医療材料等の購入について、引き続き共同化のメリットを生かし、効率化を図ることで費用の節減に取り組みます。

また、総合メディカルゾーンの機能連携として、徳島大学病院や徳島県鳴門病院との医薬品及び医療材料の共同購入についても情報交換を行い、今後の方向性を検討します

本局・各病院	平成26年度の実績 (医療器械等の共同購入の推進)
病院局 【目標】 ・医薬品の採用品目数 病院事業全体1,000品目 (平成28年度) ・医療材料の共同購入品目数 病院事業全体【130品目 (平成30年度)	【医療器械等】 汎用性が高く、機種を特定しない医療器械等の共同購入について、病院局において入札を執行し、事務の効率化を図るとともに費用の節減に努めた。 平成26年度においては、次の2件の共同購入を実施した。 ①過酸化水素ガス滅菌装置（中央・三好） ②ビデオ会議システム（三好・海部・本局） 【医薬品】 原則として試薬を除く全品目について共同購入することに加え、平成26年度より徳島県鳴門病院の医薬品もまとめて共同交渉を行い、スケールメリットによる更なる費用の節減に努めた。 また、総合メディカルゾーンの一環として、引き続き徳島大学病院とも医薬品の一部（31品目）について共同で交渉を行い、単価の引下げが図られた。 【医療材料】 県立病院において使用する医療材料について、新たに共通化を図るなど、共同購入の品目の追加を行うとともに、徳島県鳴門病院との共同購入に向けた検討を実施した。 引き続き、各病院と情報交換を行いながら、共同購入の拡大に向けた検討を進めていく。 【医薬品の採用品目数】1,869品目（平成26年度） 【医療材料の共同購入品目数】168品目（平成26年度）

平成26年度経営計画実績

経費削減の強化（3）	病院資産の有効活用	①	達成又は順調	実績の評価 B
		②	ほぼ順調	
		③	努力を要する	
		④	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

医師公舎等、病院資産の有効活用を図るため、その用途変更や処分など効率的な処理方針について検討を行うチームを設置し、先進医療への更なる取組環境や若手医療従事者の育成環境の整備を推進します。

本局・各病院	平成26年度の実績 (病院資産の有効活用)
病院局	医師公舎等、病院資産の有効活用を図るため、検討が必要な施設とその問題点について洗い出しを行った。 今後は、課題解決に向けた効率的な処理方針を検討するため、検討チームを設置して、検討を進める。

平成 2 6 年度経営計画実績

経費削減の強化（４）	管理業務の検証	(A)	達成又は順調	実績の評価 B
		(B)	ほぼ順調	
		(C)	努力を要する	
		(D)	その他（実績値が不明等により、評価が困難 等）	

経営計画内容

業務委託契約については、引き続き、契約の見直しを進め、病院業務の特殊性・専門性・質の確保を考慮しつつ、経費の節減に取り組みます。
また、委託業務の執行状況については、定期的に業務内容の検証、評価を行い、効率的な業務委託に努めます。

本局・各病院	平成26年度の実績 (管理業務の検証)
病院局	業務委託契約の見直しについては、効率性と品質管理を確保するため、複数年の継続契約などの検討を行った。 今後は、関係課に対し、病院業務の特殊性に考慮した長期継続契約の拡大に向けた働きかけを行うなど、契約方法の見直しに努める。
中央病院	平成 2 6 年度には臨床検査業務等、4 件の委託業務について、プロポーザルによる業者選定を行った。 また、施設管理業務について、総合評価一般競争入札により業者選定を行った。 さらに、主な委託業務については、毎月委託業務管理評価部会を開き、業務内容の検証、評価を行った。 ※ 4 件：臨床検査、医事、給食、院内保育所
三好病院	業務委託契約については、清掃、警備、物流管理及び滅菌、給食、洗濯業務などがあるが、プロポーザルによる業者選定または競争入札により契約を行っている。 平成 2 6 年度においては、新高層棟開院により清掃と警備、給食業務について、プロポーザルによる公募を実施し業者選定を行った。価格競争だけでなく業務の質を見極めて業者選定を行ったことで、より良い患者サービスへ繋がった。 給食委託業務については、新しい緩和ケア食の提供を開始した。現在はソフト食の提供も実施しており、より一層患者給食において質の向上へ取り組んでいる。 委託契約については、委託業務検討委員会において、見直し・改善等に取り組んでいきたい。
海部病院	業務委託契約については、警備業務において競争入札による長期継続契約を締結するなど、効率化及び経費の節減に努めている。 今後は、引き続き業務内容の見直しについて検討していきたい。